勝利の伝説シェブロンラインは最高級品の証。

"Chevron-Line" ist der Beweis höchster Qualität.



勝利をめざすなら、選ぶべきだ!

——無言の威圧感を与えるヒュンメル——

DOUBLE SCORE

総発売元 株式会社ダブルスコア／総代理店 大松貿易株式会社
大阪市南区難波新地3-27プリンスビルB1 〒542 TEL. (06) 213-6646

「ジャパン・カップ81」24日(大阪)に開幕

東ドイツ・中国，ベストメンバーで来日

日中女子も各地で4試合

モスクワ・オリンピックのゴールドメダリストをずらりと並べた東ドイツ，平均身長 188㎝とアジア球界史上最高の大型チームを編成した中国，迎えうつ日本の代表2チーム――日本協会が財団法人化を記念して行なう初のビッグトーナメント「ジャパン・カップ81」は，すべての手はずがととのい，5月24日，大阪市中央体育館での開幕を待つばかりとなった。

注目の来日両チームの陣容は，ともにこれ以上は望めない，とも思える最高・最強のメンバー。一方，国内の代表的プレイヤー33人を網らし，2チームに分けて備える全日本も，5月に入って，それぞれ2回の強化合宿を予定し，ホストカントリーとしての善戦に，自信たっぷりの表情を浮かべている。

確定したスケジュールによれば，第1日（24日・大阪）は，東ドイツに全日本Bが挑んだあと，今秋の世界選手権予選の前哨戦としても興味深い全日本Aと中国が対決。

第2日（28日）は，1988年の夏季オリンピック開催地候補都市・名古屋の愛知県体育館に舞台を移し，東ドイツ×中国という内外注目の好カードが組まれている。

最終日（30日）は東京体育館で，順当なら2勝同志の東ドイツと全日本が，華麗なジャパン・カップをかけての優勝争いだ。このカードは同日14時10分からNHK・TVで全国中継される。

本場，ヨーロッパ諸国はもちろんのこと，世界のほとんどの国は，毎年1回の国際トーナメント主催を定期化している。

日本でも，かねてから開催を望む声が高く，日本協会も，企画をすすめていたものだが，過去の国際交流で親交を深めた東ドイツ，中国の全面的な協力で，ついに“夢”の実現となった。

トーナメントを成功させるためには，愛好者，ファンの絶大な支援が望まれるところで，日本協会も，各会場の盛況を期待している。

なお，このトーナメントと同時期に，中国女子ナショナルチームが初来日，国内のトップチームと4試合を行うが，来年の世界選手権予選，さらには3年後のロサンゼルスオリンピック予選で日本との激突はさけられないとみられるだけに，見逃せないシリーズとなろう。

また，「ジャパン・カップ81」のあい間をぬって東ドイツは湧永薬品（広島）と，中国は大同特殊鋼（愛知）と，それぞれ親善試合を行なう。

◆国際大会スケジュール

	公式国際大会（3国対抗）	男子国際親善試合	第2回日中女子交流
5月22日（金）	東ドイツ来日（時間未定，成田），中国男女来日（14：15成田）		
23日（土）			
24日（日）	◇第1日（大阪市中央体育館） 15：30　日本B――東ドイツ 16：50　日本A――中　国		
25日（月）		◇第1戦（広島県体育館） 18：30　湧永薬品―東ドイツ	◇第1戦（京都府立体育館） 18：30　立石電機――中国
26日（火）			
27日（水）		◇第2戦 18：50　大同特殊鋼――中国 （名古屋市体育館）	◇第2戦 17：40　ブラザー工業―中国
28日（木）	◇第2日（愛知県体育館） 17：30　日　本A――日本B 18：50　東ドイツ――中　国		
29日（金）			◇第3戦（日立栃木体育館） 18：00　日立栃木――中　国
30日（土）	◇第3日（東京体育館） 14：15　日本A――東ドイツ 15：40　日本B――中　国		
31日（日）			◇第4戦（水海道二高体育館） 10：30日本ビクター――中国
6月1日（月）	外国チーム離日		

ジャパン・カップ81の話題とみどころ

杉山茂
（NHK運動部）

ずらり金メダルメンバー

東ドイツが「ジャパン・カップ81」に参加するかどうかは、ファンはもとより、日本協会にとっても大きな興味だった。

荒川清美専務理事（前理事長）が、何回か駐日大使館へ通ってお願いしたと聞くが、参加と決まったあと、今度は、竹野奉昭全日本男子監督が「モスクワ優勝のメンバーが顔を揃えてくれるかどうか」と心配していた。

東ドイツが、オリンピック優勝後、一九八二年の第10回世界選手権での優勝――つまり＜世界二冠＞を狙って始動しはじめたことが伝えられていたからだ。

東ドイツのモスクワ・メンバーは、33才（当時）のゲルラッハをはじめ20代後半が9人というベテラン中心の布陣。モスクワ後、若手との大幅なスイッチは、充分に予想できたのである。

4月21日、日本協会の届けられた来日メンバーは、竹野監督の心配を一掃した。

金メダル獲得の最大の殊勲者といわれるGK、W・シュミット（SC・マグデブルグ）以下、ドライプロート(SC・マグデブルグ)、グルーナー（ASK・フォルワルト）、ロスト（SC・ライプチヒ）D・シュミット（ASK・フォルワルト）、ヴァール（SC・エムポール・ロストック）ら、現代最高のスターたちが並んだほか、東ドイツ期待の星といわれるヴィルク（SC・エムポール・ロストック）、ローテ(SC・マグデブルグ)ら最新鋭も加った「これ以上望めそうにないメンバー」（荒川専務理事）だったのだ。

速さと力・技、独得の世界開く

東ドイツの来日が待たれるのはオリンピックチャンピオン、金メダルチームという肩書きももちろんだが、パワー全盛の現代にあって、力と技とスピードを巧みに配合したスマートなハンドボールを身上とする、そのチームカラーの魅力にある。

すでに、日本のファンは7年前そのみごとなチームプレー、スピードプレーに魅了されている。

当時も世界2位だったが、今回は、さらに輝やかしいタイトルホルダーとしての来日だ。

磨きつくされた各選手の個人技をチーム、組織にまとめあげたハンドボールは、正に「80年代のハンドボール」といってよい。

190㎝台をズラリと並べた同じトップチームに比べれば、クリューガー(SC・マグデブルグ)、ベスター（SC・ライプチヒ）が178㎝のほか、10人が180㎝台である。

〝中型〟ともいえる彼らが、世界の王座へ就いたのは、すべてに計算しつくされた組織プレー以外の何ものでもない。

大型選手が相手ディフェンスを時に引きずり、時に3メートルを越す高打点シュートを放つ近代ハンドボールの豪快さは、大きな魅力にちがいないが、そうした風潮の中で、東ドイツは多彩な変化、豊富な攻め口、あくまでオーソドックスな守りを基調にした伝統のハンドボールで、独得の世界を開いて来た。

それはまた、体軀に恵まれぬ日本のハンドボールの目指すものでもあるわけだ。

東ドイツが二度目の来日でありながら、専門家、愛好者たちが、新鮮な気持ちで、この大チームを迎えようとしているのは、それなりの理由があるのである。

攻撃の主力はヴァール

さて、来日メンバー15名のうち10名が金メダル選手。

このうち、W・シュミット、D・シュミット、ロスト、グルーナーは、七四年にも日本の土を踏んでいる。

当時は、まだ出番も少なく、ガンショウ、ラケンマハー、ベーメといった先輩のプレーに熱い視線を送っていたものだが、今や彼らは、そうした名選手に優るとも劣らぬ〝世界の顔〟だ。

特に、GK、W・シュミットはモスクワでは、東ドイツの再三のピンチを、その美技で切り抜けたヒーローである。

D・シュミットも息の長い選手で、ディフェンスのスペシャリストとして名が高い。

ロストは、先年、東ドイツ女子（世界1位）の中堅として来日したクリスチーナ・ロストの夫君。

モスクワでは夫が金、妻が銅メダルを手にして話題となった。ポストでの鋭い動きに定評がある。

来日チームの攻撃の切り札は、このところメキメキ力をつけてきたヴァールだろう。モスクワでは33ゴールとチーム一の得点をあげた。ホームクラブ・ロストックでもエースとして1試合7、8点をかせぐ、クリューガーの老巧なプレーとPT力も、東ドイツには欠かせない。

新鋭では、なんといっても2メートル、95キロの巨漢ローテに目が注がれる。

モスクワ後の北欧遠征や今年1月のバルト海カップ（優勝）で、しきりと起用されているのをみると、東ドイツも、大砲の心要性を感じはじめているのかも知れない

B監督に市原則之氏

（速報）日本協会は「ジャパン・カップ81」に出場する全日本A、Bの陣容を次のように決めた。

◆全日本A▽監督　竹野奉昭▽コーチ　東嘉伸、早川清孝▽GK　福井(湧永)、岡部(大崎)、大畑（本田）▽FP津川、志賀、山本、池ノ上(以上湧永)、大原、蒲生（以上大同)、田口、猪野(以上中大)関(三陽)、斉藤将(湯沢ク)、斉藤幸(大崎)。

◆全日本B▽監督　市原則之▽コーチ　近森克彦、野田清▽GK　井藤(湧永)、原田(大崎)、上村（大同）▽FP穂積、松本、生駒、内田(以上湧永)、佐々木、三本松（以上本田)、山口（三陽)、長野(大崎)、中本(大同)、松井（栃の葉ク)、仲田(千葉教員)。

まだ21才の若さ、ベテラン連中が、ローテをどのように使うか興味深い。

対照的に、テクニシャンの新星ペスターも売り出し中の選手。このような選手の〝発掘〟が、いかにも、この国らしい。

成年男女合わせて二千五百余チーム(日本は約九百)、五万人(日本は約一万五千)を越す競技人口は、総人口比としては、世界でもデンマークと並ぶ高率で、サッカーをしのぐハンドボール熱は、正に国技というにふさわしい。

往年の人気選手、P・ティーデマン監督(42才)に率いられ、世界の最高峰を極めたことで、ハンドボールへの熱狂は、以前にも増して高まり、モスクワ後の連戦連勝、ヨーロッパ・カップにおけるSC・マグデブルグの優勝、同カップ・オブ・カップスにおけるSC・エムボール・ロストックの準優勝は、さらにさらにそのボルテージを引き上げている。

「ジャパン・カップ81」での優勝も〈世界二冠〉の野望達成に欠かすことのできない一里塚であろう。

すばらしい意気ごみの中国

意気ごみの上では東ドイツをしのぐとさえといわれる中国。

モスクワ予選(54年12月、名古屋、東京)で、日本に2連敗した時、日中の差は、まだまだ、かなりある、といわれたものだ。

それが、今春2月のクウェート国際では、一気に引き分けまで持ちこんできた。後半10分16―22という劣勢からの挽回で、である。

この一戦ほど、中国に自信を与えたものはなかった。

復活後、彼らはフランス、西ドイツ、ユーゴなどに遠征。

必死にブランクを取り戻そうとした努力の行く先に据えられたターゲットは日本であった。

その日本に、モスクワ予選を含めて4連敗。

それを、勝てないまでも互角に追い詰めたことは、中国ハンドボール界の展望を、明るく照らし出すものといえた。

そうしたムードのなかで招かれた「ジャパン・カップ81」。

中国にとっては、15年ぶりで日本から勝利を奪うチャンスなのである。

来日メンバーは、クウェート国際とほぼ同じだ。

驚くことに、この選手たちのなかで、モスクワ予選時に来日したのは李英才(湖北)、呉明群(黒竜江)、張生(山東)の3人だけ。

監督も、長くその座にあった陳梅全氏から何明清氏(44才)―李晋康氏(28才)コンビに代っている。

思い切った若返りによる最初のテストマッチともいうべきクウェート国際で日本と引き分けたことの大きさは計り知れない。

張生(山東)、張保平(陝西)、李国才(河南)ら、クウェート国際で自信をつけた若手に、今回はさらに19才の張鳴(ハルビン体育学院学生)や21才の劉豊(昆明体育学院学生)など〝無名の大型新人〟を加えて来

★ジャパン・カップ81来日両チームメンバー

◇…東ドイツ…◇

・団　長　ハリー・レンニング
・監　督　パウル・ティーデマン
・コーチ　クラウス・ラングホフ
・医　師　ドクター・P・ルック
・トレーナー　ディートリッヒ・ゲシェフスキー

・GK

1.	ユルゲン・ローデ	(28才)	184cm	80kg	13回
12◎	ヴィーラント・シュミット	(27)	184	80	137
16.	ペーター・ホフマン	(25)	182	79	3

・FP

2◎	ギュンター・ドライブロート	(29)	196	91	128
3◎	ペーター・ロスト	(29)	183	83	169
4◎	クラウス・グルーナー	(28)	187	84	112
5◎	ハンス・G・ヤウニッヒ	(29)	185	81	16
6◎	ディートマル・シュミット	(29)	181	87	174
7◎	ハルトムート・クリューガー	(28)	178	81	78
8◎	ロタル・デーリング	(30)	186	87	53
9.	ヘルムート・ヴィルク	(25)	188	87	29
10◎	フランク・M・ヴァール	(24)	190	94	115
11◎	インゴルフ・ヴィーゲルト	(23)	185	88	88
13.	アンドレアス・ペスター	(22)	178	88	25
14.	ウド・ローテ	(21)	200	96	16

・◎印モスクワオリンピック優勝メンバー
・右欄数字は公式国際試合出場回数

◇……中　国……◇

・団　長　楊　　勝
・監　督　何明清
・コーチ　李晋康
・医　師　候敬儒
・通　訳　李友林

・GK

1	邵志雄	(23才)	190cm	90kg
12	閔　鉄	(22)	192	84

・FP

2	安福田	(23)	190	88
3	孫平生	(26)	190	86
4	李国才	(22)	185	78
5	呉明群	(26)	190	88
6	劉　豊	(21)	188	85
7	張　鳴	(19)	191	86
8	孟伏胜	(22)	186	88
9	徐旭波	(22)	190	89
10	李英才	(26)	178	75
11	張　生	(23)	186	80
13	張保平	(24)	188	85
14	白義順	(23)	190	87

『ハンドボール』

56年5月号(第196号)目次

ジャパンカップ開幕へ……………(1)
ジャパンカップ展望……………(2)
日中女子交流……………(4)
世界ジュニア予選……………(7)
全国理事会……………(9)
全国高校選抜大会……………(16)
日韓社会人交流……………(22)
世界男子、予選組み分け……………(15)
大会ガイド……………(25)
日本リーグ人事……………(13)
国民スポーツへの動き①……………(27)
「松ヤニ」の効果…大西武三…(30)
プレスルーム……小山敏昭…(29)
各地の記録……………(32)

【表紙写真】第4回全国高校選抜大会男子決勝・優勝した中京・河原の攻撃ぶり(対明星、3月27日・愛知県体育館)

提供・スポーツイベント

ている。

一説に千二百人ともいわれる第一線プレイヤー、その選手層の厚さは、想像以上のものがあるようだ。

東ドイツしのぐ"高さ"

ところで、中国の平均身長は188cmである。

もちろん、アジアハンドボール史上、最高の数字。

今回に限っていえば、東ドイツの186cmさえしのぐ。

つまりは、その高さ、大きさにおいては、中国チームは、すでに世界のトップラスということができるのだ。

もし、この高さ、大きさに中国人特有のバネと手首の強さが活かされ始めたなら、ハンドボールは中国のもっとも得意とするスポーツの一つになるだろう。

「ジャパン・カップ81」の焦点の一つとして、東ドイツ×中国の外国同士の対戦がある。

一部のファンの間には、外国同士というのは、例えば東西ドイツ戦、ソ連×ルーマニア戦でなければ、との声があるそうだが、少なくとも記者は、そうは思わない。

世界最強の東ドイツを、体格面においてしのぐアジアのチーム・中国が、はたして、どのような試合を挑むことができるかは、単に日本のファンの興味に留らず、世界の専門家、ファンの関心事といってもよいのである。

卒直のところ、今回の対戦で、中国が東ドイツを破るとは考えられない。

しかし、前述のように、中国チームに、中国人の天性がプラスされた将来を考えれば、この一戦こそ、「ジャパン・カップ81」の最大のハイライトではなかろうか。

中国に、今回そこまでの"計算"があるかどうかは分からないにしても、球趣はつきない。

彼らの狙いは、今秋の世界選手権予選、来秋のアジア大会（インド）、2年後のロサンゼルス・オリンピック予選の三大イベントで日本を破ることにあろう。

二枚の本大会行きパスポートがある今秋の予選はまだしも、ロサンゼルス予選は、現況からすれば一枚の切符をめぐっての死闘が必至である。

中国の準備は、クウェート国際によって順調なスタートが切られ「ジャパン・カップ81」は、その序盤の一つの仕上げに相当するものとみてよい。

24日大阪での全日本A×中国戦は、文革後"友好"をベースに対戦した両国にとって、初のタイトルマッチということもできるだろう。

4月に日中交流を、という当初の予定を変えて「ジャパン・カップ81」への参加を強く望んだ中国の意気ごみが、何よりもそれを物語っているのである。

成功のカギ握る全日本

いささか、来日両チームについてスペースを取り過ぎたかもしれないが、記者が秘かに期待をかけているのは全日本2チームの健闘である。

モスクワを流し、クウェート国際で2位に甘んじるという試練を味った全日本が、一気の爆発を、この大会にかけるものと思いたい。

また、国際トーナメントの成功は、いずれの国、いずれの場合でもホストチームの活躍が、カギを握る。

昨春、全日本は東ドイツへ遠征20—32、14—26と2連敗したが、そのあと、東ドイツチームがモスクワ優勝して以来、全日本の主力選手たちは、ひたすら"再戦"を願った。その機会が来たのである。

中国との対戦の意味の深さも、選手は知り抜いている。周囲から「日中の差が縮められた」と聞かされるほど、選手の闘志に火がつき、油が注がれる状態だ。

全日本A×Bの対戦も、大会のみどころの一つにあげていい。

これまで、こうした対戦は、記念試合ばかりで、真けん勝負の記録はない。

特に、BがAを、中国、東ドイツ同よう、"外国チーム"と見立てて挑んだならば、二チームを送り出した日本協会の狙いはみごとな実りをあげることになる。

最後に一つ苦言を呈するなら、今大会、せめて一組の外国レフェリーを招いて欲しかった。

中国女子も初来日

日本協会は、中国女子ナショナルチームを初めて迎え「第2回日中女子交流」を、5月24日から31日まで各地で行うことを決めた。

中国女子は、「ジャパン・カップ81」に参加する男子チームと同時に来日するが、日本側は、全日本実業団選手権（大阪）を終えたばかりのトップチーム4チームが迎えうつ。

日中女子交流は、昨年4月、全日本女子が訪中して初めて行われ全日本女子は6戦1勝1分4敗と苦戦した。

また、4月世界ジュニア予選で日本が中国に完敗したことから、にわかに、今回のシリーズへ、関心が高まってきている。

来日チームは平均身長170cmという大型。（試合日程は1頁所報）。

中国女子来日メンバー

・団長 賀捷
（遠征選手団副団長）
・監督 陳維政
・コーチ 王明亜
・医師 侯敬儒
・通訳 劉屯

・GK

1	王豊蘭	(25才)	170cm	64kg
16	葵春娥	(20)	175	66

・FP

2	王霞	(23)	174	75
3	麦美玲	(22)	173	66
4	楊淑紅	(24)	168	60
5	楊萍	(25)	160	60
6	呉萍	(23)	174	73
7	王琳萍	(24)	174	72
8	周玲	(25)	169	73
9	曹錦	(24)	165	62
10	趙鳳春	(21)	169	72
11	範連雲	(23)	167	61
13	朱運珍	(23)	172	72
18	郭英沢	(22)	172	70

日本×東ドイツ過去の記録

東ドイツ	31	16	日本
東ドイツ	17	11	日本
東ドイツ	22	13	日本
東ドイツ	20	13	日本
東ドイツ	17（10—4、7—12）	16	日本

〜昭和49年9月・京都〜

東ドイツ	32	20	日本
東ドイツ	26	14	日本

日本×中国過去の記録

中国	26	14	日本
中国	26	14	日本
中国	22	16	日本
中国	18	17	日本
日本	26	19	中国
日本	27	25	中国
日本	35	21	中国
日本	27	22	中国
日本	25（分）	25	中国

HANDBALL SPECIAL

NEW

3063 ¥12,000

3064・ホワイト×

3065・ホワイト×ブラック

新登場、ハンドボールスペシャル。なぜ、「スペシャル」なのか。



あのシェルソールが、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をアップ。

世界選手権を始め、国際大会で圧倒的な使用率を誇り、数々の栄光へ導きつづけるアディダス・ハンドボールシューズが、スポーツ科学の最新の成果を背景にさらに新たなシェルソールを装備して登場しました。その名も「ハンドボールスペシャル」。速攻性の追求はもちろん、ソールの溝は極限の倒れ込みシュートでも安定した軸足を確保。ターンを容易にする回転ゾーンやグリップ性を高める吸盤、トレフォイル(3つ葉)パターンなど、ハンドボール競技におけるフットワークの意味をマキシムまで追求し、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をさらにアップしています。

勝利を呼ぶ3本線

adidas

The science of sport.



兼松スポーツ用品株式会社

〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3☎06-305-1431 〒130 東京都墨田区緑2-12-3☎03-634-1411

駒沢（東京）で世界ジュニア予選

12・13日 日本×台湾、6月2、3日 男女決勝戦

日本協会は、新体制後、2回の全国理事会で、第3回世界ジュニア選手権アジア予選の男子1回戦日本×台湾の2試合と、同予選の男女決勝戦各2試合を、いずれも日本で引き受けることを正式決定した。

日程は、日本×台湾が5月12日と13日いずれも午後6時30分から東京・駒沢屋内球技場で、男女決勝戦は、6月2、3の両日東京・駒沢体育館（時間未定）で行われる。

同予選の期日や試合地は、昨冬11月末のエントリー〆切り以来、二転三転した。

これまで、世界選手権とオリンピックのアジア予選はIHF（国際ハンドボール連盟）が切り盛りしていたが、今回からAHF（アジアハンドボール連盟）が主導権を握り、男女にエントリーしている台湾がAHF未加盟なことから女子4カ国の台湾集結案や、男・日本×台湾、女・韓国×台湾の台湾開催に難色を示し、いちちは、全カードが、宙に浮きかけた。

最終的には、AHFが、AHFとIHF両組織の理事を兼ねる渡辺和美氏（東京協会々長）に収拾を委せ、同理事は、まず、日本×台湾戦を日本で、女・韓国×台湾戦を韓国で行うよう新提案、各国とも了解点に達した。

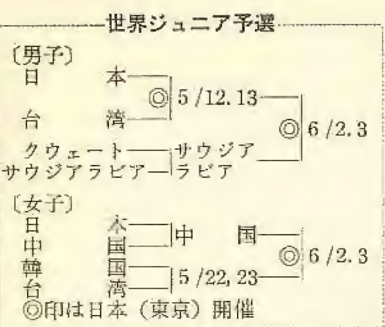
これと併行して、日本協会は独自の判断から、対戦カードいかんを問わず男女決勝戦の日本誘致を名乗りあげ、AHFも全面的に日本の申し出を支持した。

ところで、男子の第一関門ともいうべき対台湾戦は、本格的な台湾チームの来日が史上初めてということもあり大いに注目される。

別掲のとおり、日本の女子が決勝進出を逸したため、男女決勝を招く日本協会にとっては、男子には、なんとしても勝って欲しいところである。

台湾のジュニア層は、同国協会の積極的な国際交流策で17才でナショナル入りした紀紹印（186cm）らかなりの力をつけていると伝えられるが順当なら日本が勝ちあがり、サウジアラビア（クウェート棄権）と〝駒沢決戦〟をくりひろげることとなろう。

なお、今回の予選はすべてアジア各国のレフェリーで運行されることになっており、日本は、5月22、23日ソウルで行われる女・韓国×台湾戦に光島磯雄、狩野幸介両氏を派遣する。



全日本男子J候補選手

日本協会強化部は5月12、13日東京で行われる第3回世界ジュニア選手権アジア予選日本×台湾戦の候補選手を次のように決めた。10日までに、この20選手のなかから16選手が選ばれる。

▽監督 木野実▽コーチ 本田洋▽GK矢内（国士舘大）、簑輪（名城大）、小野（大阪体大）▽FP 佐々木、寺山（ともに日体大）、庄司、中川（ともに中大）、松岡、東江（ともに大崎電気）、立木（名城大）、高砂（同大）、柏原（福岡大）、小山（早大）、中島（筑波大）、玉村（大阪体大）、斉藤（三陽商会）、田口（日大）、山口（日鉄建材）、田口（大同特殊鋼）、荷川取（中部工大）

台湾来日でJOCなどに報告

日本協会・荒川清美専務理事は第3回世界ジュニア選手権アジア予選で台湾が来日することになったため、4月8日のJOC（日本オリンピック委員会）総会で報告、日本体協には文書で、その旨を伝えた。

これは、日本体協が、これまで中国との間に「二つの中国を認めない」という協定を結んでいるためである。

なお、中国側は、4月23日、訪中した荒川氏に「台湾は中国タイペイ協会の名称を使用し、いわゆる中華民国のマークは服装、所持品に一切つけない。また、いわゆる中華民国の国旗と国歌を使用しない」というIOC（国際オリンピック委員会）が決議した条件に基いて、台湾×日本戦の日本開催に同意することを明きらかにした。

女子、中国に敗れ決勝進出成らず

（速報）第3回世界女子ジュニア選手権アジア予選1回戦・日本×中国の2試合は、4月23、25日の2日間、北京・首都体育館で行われ、日本は善戦空しく連敗、東京での決勝戦に進出できなかった。

日中両代表とも、この対戦が初の公式国際試合という若いチーム同士だったが、中国は178cm二人を含む平均身長173cmの大型でスピード、パワーにあふれ、多彩な攻守を示して日本を圧倒した。

▽第1戦（4月23日）

中国 20（13―7、7―5）12 日本

＜日本の得点＞志村5、前田4、秋成、手打、河原各1。

▽第2戦（4月25日）

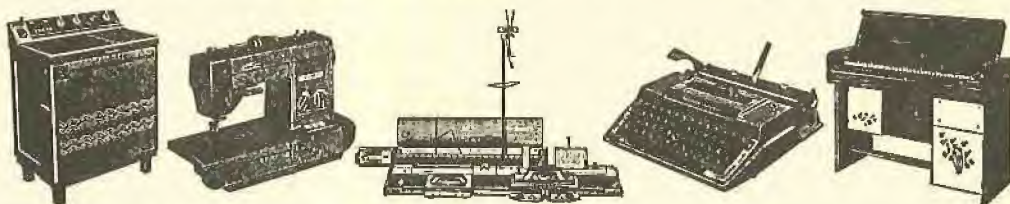
中国 26（17―7、9―4）11 日本

＜日本の得点＞増永4、志村3、河原2、松下、前田各1。

全日本女子J代表

▽団長 安藤純光（日本協会競技部長）▽監督 伊藤宏幸▽コーチ 樫塚正一▽視察員兼総務 池田鉄哉▽GK 荒木晴美（立石電機）、畑添真由美（武庫川女大）、蒭生豊子（日立栃木）▽FP 増永真奈美、松下泉、太田尚美（以上ブラザー工業）、手打ひろみ、前田亜子（以上日立栃木）、若林美智子、寺沢路子（以上ジャスコ）、河原敦子、鈴木敬子（以上筑波大）、斉藤歩美（東京重機）、近藤ひろ子（立石電機）、秋成圭子（大和銀行）。





日本協会新人事

強化部長に竹野奉昭氏（全日本男子監督）

総務・大野、競技・安藤氏が担当

日本協会は4月18日、東京渋谷の岸記念体育会館で、第2回理事会を開き、執行部担当理事案などを協議、財団法人としての本格的な活動へスタートを切った。

担当理事のうち、注目の総務部長は大野金一常務理事、競技部長は安藤純光常務理事と決まり、約1年にわたり旧理事長が兼務していた内外注目の強化部長（強化委員長）は、竹野奉昭・全日本男子監督を、現職兼任のまま起用することとなった。

これは、荒川清美専務理事の強い要望による人事である。

しかし、理事会に議決権を持つ強化担当理事の選任は、長時間の論議の末まとまらず、専務理事一任となり、4月30日の常務理事会でも指名できぬまま、5月11日の同会まで持ちこされる〝難産〟ぶりである。

なお、審判・規則委員会の委員長には岡前義春氏が選ばれた。

竹野部長、岡前委員長は今後の全国理事会、常務理事会に出席する。

第2回理事会は、荒川専務理事安藤、入江、伊藤、北川、西村、大野、大西、境井、清水、若山各理事が出席、文書委任8理事で成立（欠席1名）。

今回の会議の主な目的は、前回（3月26日）の理事会で選任された常務理事の分担を決定することと、昭和56・57年度評議員の選任にあった。

常務理事については、本誌既報のとおり、前回、安藤、北川、西村、大野、大西、境井の6氏を選任、その場では担当が決まらず、専務理事と常務理事の7氏によって、合議制での運営が行われていたものだが、すでに新年度に入っていることと、5月に国際事業が並んでいることなどから各方面で早急に、常務理事会の〝確立〟が望まれていた。

法人化にともなう理事会内組織（機構）は、前回、荒川専務理事の示した案が承認されており（＝既報）、焦点は常務理事の配置（担当分け）であった。

まず、法人運営の中核ともいうべき総務部長には、法人化にあたって、その申請手つづきの中心となり、総務としての実績もある大野金一氏が就任、総務部系各セクションのうち、広報・会報担当は北川勇喜氏が新任、国際渉外は境井秀三氏、会計担当には西村孝雄氏が、それぞれ、旧日本協会時代につづいて留任となった。

普及担当に大西氏留任

競技部系は、部長に日本協会理事8期のキャリアをもつ安藤純光氏が就いたほか、普及担当は、ここ数年、地味ながら着実に事業を手がけ、成果をあげている大西武三氏が継続することとなった。

ここまでは、スムースな人事であったが、6人の常務理事は、これで手いっぱい、荒川構想の示す他のセクションに、常務理事を配することが難しくなった。

荒川専務理事は、このため、前回すでに一部の理事から提言のあった委員会委員長を含めた「拡大常務理事会」システムの登用を明らかにし、審判・規則委員長に岡前義春氏（前日本協会審判担当理事）の起用を発表した。

「審判・規則」については、前回、藤田理事などから「委員会」より「部」として独立させるべきだとの意見が出され、注目を集めていたが、結局、「部」の扱いは見送られることとなった。

また、競技部内に予定された「競技・技術委員会」は、当分、発足を見合せ、したがって、担当理事も置かれない。

日本リーグ担当理事は、日本リーグ側が、すでに4月4日の第24回運営委員会で委員長に安藤氏を重任していることもあって、競技部長との兼務で問題はなかった。

強化部、「担当理事」は難産

新体制最大の人事とみられていた強化部長は、昨年1年間、荒川氏（理事長）が兼務していたこともあって、内外から大きな関心が寄せられていたが、竹野奉昭・現全日本男子監督の起用という思い切った策が採られた。

これは、荒川構想の一つといわれ、4月9日の常務理事会で、各常務理事が、内諾していた。

竹野氏は、岡前氏とともに常務理事会、理事会に出席するが、入江理事などから「強化部は、日本

昭和56．57年度理事

○印常務理事
△印理事以外の特別スタッフ

・会長
　斎藤　英四郎
・副会長
　林　達　夫
・専務理事
　荒川　清　美
・総務部長及び総務担当理事
　○大野　金　一
・広報・機関誌担当理事
　○北川　勇　喜
・会計担当理事
　○西村　孝　雄
・国際渉外担当理事
　○境井　秀　三
・競技部長
　○安藤　純　光
・普及担当理事
　○大西　武　三
・日本リーグ担当理事
　安藤純光競技部長の兼任
・理事
　藤田　八　郎
　平田　幸　男
　入江　信太郎
　伊藤　和　夫
　森　　恭　一
　中井　泰　彦
　岡田　豊　夫
　越智　　　武
　清水　　　正
　若山　　　博
　山田　　　稔
・強化部長（強化委員長）
　△竹野　奉　昭
・審判・規則部専門委員長
　△岡前　義　春

（本誌注）「北海道」「実連」「会長推」など理事の出身母体は，法人後は一切付されない。

—昭和56. 57年度評議員—

（敬称略）

◇寄付行為第32条(1)による評議員

吉田正紀（北海道）
太田尚克（青　森）
箱崎敬吉（岩　手）
高橋善幸（宮　城）
豊島慶男（秋　田）
五島訓二（山　形）
関川正道（福　島）
柏崎　茂（茨　城）
髙橋隆夫（栃　木）
高橋　潔（群　馬）
金子永治（埼　玉）
浮谷貞雄（千　葉）
岡村昭二（東　京）
斉藤達也（神奈川）
古屋　正（山　梨）
渡辺五郎兵衛（新　潟）
柳沢民弥（長　野）
金原　至（富　山）
村井輝邦（石　川）
竹田　弘（福　井）
片瀬喜代次（静　岡）
幸村　稔（愛　知）
中根武彦（三　重）
浅野　清（岐　阜）
尾本和男（滋　賀）
岩本定男（京　都）
小西清海（大　阪）
常松　喬（兵　庫）
森田正英（奈　良）
山田　進（和歌山）
永井武男（鳥　取）
藤原忠男（島　根）
永井恒三郎（岡　山）
荒谷拓三（広　島）
藤田信義（山　口）
松原　忠（香　川）
前田誠之助（徳　島）
高橋満年（愛　媛）
酒井　満（高　知）
箱崎省吾（福　岡）
甲斐忠義（佐　賀）
和田旬功（長　崎）
井　　薫（熊　本）
福田　稔（大　分）
坂本　平（宮　崎）
堀之口貞男（鹿児島）
平仲孝栄（沖　縄）

◇寄付行為第32条(2)による評議員

嶋田新太郎（高体連）
山田　計（教職員連）
田中滋章（実　連）
中沢重夫（学　連）
富永　劭（自衛隊連）

協会の三大柱の一つ。担当に常務理事も配すべきだ」との意見が強く出された。

しかし、すでに6人の常務理事の担務が決まり、兼務するのは事実上不可能などから、議論は、なかなかまとまらず、荒川専務理事は、竹野氏が「常務理事会、理事会に出席できる」ことを再強調、強化部の円滑な運営に自信を示した。

だが、竹野氏に議決権がない点の指摘もあって、最終的には、強化担当の常務理事を配置するかどうかは、専務理事が「さらに検討する」として、この場の協議を収めた。

（本誌注・荒川専務理事は、4月30日の常務理事会で「強化担当常務理事を置く」旨を明きらかにしたが、具体的な人選までには進まず、5月11日の同会に持ち越された。

荒川専務理事は「強化担当は、現理事のなかから1名を選び、常務理事に追加推せんしたい」としている＝速報）

「財源問題プロジェクトチーム」は当面、斎藤英四郎会長、林達夫会長、荒川専務理事、大野、西村両常務理事で編成する。「国民スポーツプロジェクトチーム」は、普及担当と密接な関係にあるため同チームの活動方針も含めて、荒川専務理事と大西担当が、分掌、事業などを精細に再点検したうえ担当理事を決定することになった。

会長、副会長、専務理事、常務理事を除く11人の理事は今後、各専門委員会のメンバーに加わる予定。

5月末に評議員会か

昭和56・57年度の評議員については、別表のとおり、寄付行為第22条にもとずき加盟団体(第32条)から推せんされた各氏が、全員選任された。任期は2年。

旧日本協会の代議員会は、最高の意思決定機関だったが、財団法人では、理事会が意思決定および執行の責任者。

評議員会は、その理事会の諮問機関になる。

56年度の事業計画と収支予算は財団法人設立発起人会で決定し、文部省の設立許可手つづきのなかで、すでに承認されており、評議員会の審議と、その後の理事会の決定までは、とりあえず、その収支予算に基づき、理事会の責任において執行していくこととなる。

なお、第1回評議員会は、5月30日または31日東京で開かれる予定だ。

このほか人事関係では日本体協評議員に推せんしていた荒川清美氏が、日本体協理事に三選(既報)されたため後任に大野金一氏を、国民体育大会競技運営委員には、安藤純光氏を、それぞれ推せんすることに決めた。

5月中旬までに専門委編成

事業関係では、前回承認をうけた第3回世界ジュニア選手権アジア予選1回戦・日本×台湾戦を2試合とも日本（東京・駒沢屋内球技場）で行うことが確認され、この件は、すでにJOC（日本オリンピック委）と日本体協に報告をすませたことも明きらかにされた。

また、4月23、25日北京での開催が決定した同予選女子1回戦・日本×中国戦の代表選手団名簿を承認、同予選の男女決勝戦を、6月2、3日、東京・駒沢体育館で開く件も、正式決定した（＝関連記事本誌7頁）。

法人運営のカギを握るとみられる各専門委員会の編成については各担当理事（常務理事）とも、5月中旬までにリストアップするとしたが、5月に国際行事の並ぶ強化部は、荒川専務理事から「強化部組織はコーチ群、トレーニングドクター群、総務群の3パートに分かれ、それを総括する強化委員会を置く。

強化委員会は、全国連盟、日本リーグからの選出委員と本部推せん委員などで構成する」という旧日本協会の強化部組織の継承が説明された。

これに対して、一部の理事から「規模をふくらませすぎると、スムーズな活動や、集約した方針が打ち出しにくいのではないか」「委員の選出に再検討の余地がある」などの意見が出されたが、これまでの4年間、この法式で一応の成果をあげているなどから、改組までには至らなかった。

日本体協の競技力向上委員会国際競技力向上事業コーチとして主任コーチに竹野氏、総括コーチに平岡秀雄氏、強化コーチに池田鉄哉、伊藤宏幸、鈴木義男、木野実の各氏、トレーニングドクターに阿部徳之助氏の推せんが発表され承認をうけた。

（本誌注・トレーニングドクターに推された阿部徳之助氏は辞意を表明している）

一般報告事項としては文部省から57年3月末までに五千万円とすることが義務づけられている財団法人基本金は今春3月26日現在、四五三〇万円が集金がされているとされた。

雑件では、日本協会制定の公式記録用紙の様式を改正した。

荒川氏、JOC常任委員留任

JOC（日本オリンピック委員会）は、4月8日の総会で常任委

昭和56年度日本協会主要大会日程

・第22回全日本実業団男子選手権	（5月2～4日・愛知県体育館）
・第3回世界ジュニア男子アジア予選1回戦・日本×台湾	（5月12，13日・東京駒沢屋内球技場）
・第22回全日本実業団女子選手権	（5月22～24日・大阪市中央体育館）
・男子「日本・中国・東ドイツ3カ国対抗ジャパン・カップ」	（5月24，28，30日，大阪，名古屋，東京）
・男子国際親善大会	（5月25，27日広島，名古屋）
・第2回日中女子交流	（5月25，27，29，31日，各地）
・第3回世界ジュニア男女アジア予選決勝	（6月2，3日・東京駒沢体育館）
・第31回（女子第13回）全日本学生選抜東西対抗	（6月7日・大阪東淀川体育館）
・第6回日本リーグ前期	（6月13日～28日・各地）
・第1回全国クラブ選手権	（7月3～5日・京都府舞鶴市）
・第20回（女子第11回）西日本学生選手権	（7月3～6日・福岡市）
・第32回全日本高校選手権	（8月1～7日・東京八王子中大体育館）
・第8回全国高専選手権	（8月2～3日・宇部市宇部高専）
・第24回全日本教職員選手権	（8月8～12日・島根県江津市）
・第3回東日本学生選手権	（8月19日～23日・山梨県甲府市）
・第10回全国中学校大会	（8月21日～23日・山口県徳山市）
・第13回全日本自衛隊選手権	（9月・東京駒沢＝予定）
・西ドイツ「ツルゲン・マインデ・ベルリン」招待	（9月20日～10月10日・各地）
・第36回国体ハンドボール競技	（10月13日～18日・滋賀県彦根市）
・第6回日本リーグ後期	（11月7日～29日・各地）
・第24回（女子第17回）全日本学生選手権	（11月・東京）
・第33回全日本総合選手権	（12月16日～20日・東京体育館）
・第13回全国実業団男子トーナメント	（57年2月10日～12日・愛知県豊田又は刈谷市）
・第8回世界女子選手権アジア予選	（57年2～3月＝予定）
・第5回全国高校選抜大会	（57年3月26日～28日・名古屋市）
【海外遠征】	
・全日本女子東ヨーロッパ遠征	（7月下旬＝交渉中）
・第10回世界選手権アジア予選	（9～10月・未定）
・フランス男子国際トーナメント（8カ国対抗）	（12月7～13日・フランス）
・第3回世界男子ジュニア選手権	（12月5～14日・ポルトガル）
・全日本男子ルーマニア強化合宿	（57年1月・ルーマニア）
・第10回世界選手権	（57年2月23日～3月7日・西ドイツ）
【日韓交流＝予定】	
・第13回（女子第8回）学生	（6月・日本側訪韓）
・第15回（女子第8回）高校	（8月・日本側訪韓）
・第9回（女子第10回）社会人	（57年3月・日本側訪韓）

員〜任期4年〜の選出を行ない、日本ハンドボール協会のJOC委員・荒川清美氏（専務理事）は再選となった。

日本協会専務理事・荒川清美氏は、本誌既報のとおり、日本体協理事に三選〜任期2年〜されたが4月8日の初理事会で、前期に引きつづきスポーツ少年団担当委員長に選任された。

なお荒川氏は日本体協競技力向上委員にも選任された。

AHF（アジアハンドボール連盟）は、4月23、25日北京で行われた第3回世界女子ジュニア予選日本×中国戦の技術代表に、荒川清美AHF理事を指名した。同理事は4月21日から6日間訪中。

日体、早大など処点校に

日本協会は、日本体協の56年度の大学強化処点校に男子の日体、早大、中大、女子の日体、同コーチに藤原侑、大西武三、一宮昌平田中秀夫、高野亮の氏を推せんした。

5月13日に強化委員会

日本協会強化部は、強化委員会の編成を急いでいたが、このほど本部推せんとして鈴木義男、井蕪の両氏を決めた。

全国連盟など推せんの藤原侑（学連）、北岡大覚（高体連）、富永砺（自衛隊連）、近藤金博（実連、新任）、村田弘（日本リーグ）、柳井文治（教職員連）の各氏が、すでに決まっており、5月13日午後東京で初委員会を開く。

なお、竹野奉昭、池田鉄哉の両ナショナルチーム監督、体協総括コーチに新任した平岡秀雄氏、それにトレーニング・ドクター（未定）も、従来どおり強化委員会のメンバーとなる。

岡前、光島両氏を派遣

IHF審判シンポジウム

IHF(国際ハンドボール連盟)のレフェリー・シンポジウムは、5月9日から13日までオーストリアのリンダブルーン（ウイーンの南30キロ）で、加盟各国の審判責任者と代表的国際レフェリーの参加によって開かれるが、日本協会は、このほど岡前義春氏（日本協会審判・規則委員長）と光島磯雄氏（国際公認審判員）の両氏を派遣することに決めた。

コーチSには木野、鈴木氏

IHF(国際ハンドボール連盟)のコーチ・トレーナーシンポジウムは、5月17日から23日までスイスのマグリンゲンで、加盟各国のナショナル・コーチングスタッフ2名以内）を集めて開かれるが、日本協会は、このほど木野実氏（日本協会強化コーチ群）と鈴木義男氏（日本協会強化委員）の両氏を派遣することに決めた。

常任委員に近森克彦氏（新任）

日本リーグ運営委員会

日本リーグは、4月4日午後、東京渋谷の岸記念体育会館で運営委員会を開き、任期（1年）満了にともなう役員改選と来年度（第7回）以降の女子チーム数問題などを協議した。

役員改選では、委員長に安藤純光氏（日本協会担当理事）を三選したほか、副委員長の山田稔（日本協会理事）、岡前義春（日本協会審判部審判委員長）、横地宇吉（プラザー工業）の三氏も、いずれも留任した。

常任委員は、前年の8名から1名減となり、山中喜作氏（日立栃木）ら6氏が留任、近森克彦氏（三陽商会）が新任した。

近森氏は、元全日本選手で、ミュンヘンオリンピック代表チームのコーチ兼選手、日本人で唯一人西ドイツ全国リーグで活躍した球歴を持つ。

同氏がユニホームを脱ぎ、運営サイドに加ったことは、日本リーグの今後に新風が期待できる。

注目の女子チーム数問題は、来年度以降、参加チームの増加がない限り、1部8チーム制を崩さぬことが確認された。

2部は、今シーズン、和歌山県商工信用組合（和歌山）の不参加が決定しており、〝現有勢力〟は大和銀行（大阪）と東京重機工業（東京）だけ。

今シーズンは、とりあえず両チームが前、後期各1試合を行って2部を保つが、57年度以降、再び2部が3チーム以上になった場合その翌年から1部を6チームに縮少するという申し合せが、合わせて行われた。

競技面では、同率の際の順位決定を①勝ち点②同勝ち点チーム間の対戦結果③当該チーム間の得失点差④全得失点差⑤全得点数とすることとした。③が新設。

また、1・2部入れ替え戦は、前年採用した1部下位2チームと2部上位2チームによるリーグ戦を廃め、男子は1部5位×2部2位、1部6位×2部1位、女子は1部7位×2部2位、1部8位×2部1位の各2試合制とすることに改めた。

このほか、今シーズンの女子はすべて30分ハーフで行われることが確定。

ナショナル・プレイヤーは、ユニホームの腕に日の丸のマークをつけることも決まった。

○…昭和56年度日本リーグ運営委員…○

▽委員長　安藤純光（日本協会）
▽副委員長・総務企画、財務担当・広報　横地宇吉（プラザー工業）、スケジュール担当　山田稔（日本協会）、・表彰、記録審判　岡前義春（日本協会）。
▽常任委員　北川勇喜（日本協会）、山中喜作（日立栃木）、砂原睦雄（立石電機）、西村孝雄（湧永薬品）、寺垣俊彦（北国銀行）、西村尭治（大同特殊鋼）、近森克彦（三陽商会）。
▽委員　小松原保彦、橋本隆三（ともに大崎電気）、河辺徹夫（東京重機工業）、稲住晋二（トヨタ車体）、田口侑義（ムネカタ）、中田隆一（本田技研鈴鹿）、岩嶋賢（日鉄建材工業）、里旭（セントラル自動車）、坂口晋（大和銀行）、塩田正弘（三景）、伊藤英俊（中村荷役運輸）、井上裕人（大阪イーグルス）、外海信雄（ジャスコ）、小松重夫（自衛隊勝田）、宮川信幸（日本ビクター）、川岡成徳（日新製鋼）、梶原和久（大阪ガス）。

◇

この日承認をうけた第6回日本リーグのスケジュールは、5月12日正式発表される予定だが日程は前期が6月13日から28日までと、当初の計画より約二週間短かくなった。

後期は11月14日から29日までと決まった。

いずれも、今年度から打ち出した〝短期集中開催〟法式によるものである。

また、男女とも2部も、同期間内に日程編成された。既報のとおり、男子に中村荷役運輸（東京）と大阪ガス（大阪）が新加盟、8チーム1回総当りとなった。

1部の日程では、男子の大同特殊鋼（愛知）×湧永薬品（広島）が、前期は6月28日大阪、後期は11月29日愛知県内に組まれた。

女子は、昨年、4大タイトルを分けあった立石電機（熊本）、ジャスコ（三重）、日立栃木（栃木）、日本ビクター（茨城）の4強対決の10カードは、前、後期各5カードづつ〝分散〟されている。

初開催県は6月20日の鹿児島（集人町体育館）。

グンメルスバッハ来日希望

西ドイツ男子の強豪VfL・グンメルスバッハは、6月にアメリカと日本遠征を行う計画のあることを発表した。

同クラブはヴンデルリッヒら6人の西ドイツナショナルを持つトップチーム。十年前にいちど来日している。

◇

日本協会は、6月は日本リーグが行われるためグンメルスバッハの招待は難しいとみている。

世界男子の予選組み合せ決まる

アジア大陸から史上初の2カ国

IHF（国際ハンドボール連盟）は、3月6日西ドイツで、来年2月23日から3月7日まで、西ドイツ各地で行われる第10回世回男子選手権（Aグループ）の予選リーグの組み分け抽せんを行った。
その結果、日本注目のアジア大陸代表は、第1代表国がC組に、第2代表国がA組に振り分けられた。
アジア大陸代表が、二カ国となったのは、男女の世界選手権、オリンピックを通じて史上初めてだが、これは、前回（一九七八、デンマーク）で、日本が12位となったための〝特典〟である。
アジア大陸予選は、本誌〆切り（4月25日）までに、具体的なことは一つも発表されていないが、日本協会関係者は、三カ国以上のエントリーによる予選（今秋）は必至とみている。

▽予選リーグA組　ソ連（モスクワ・オリンピック2位）、西ドイツ（開催国、前回優勝）、チェコ（Bグループ2位）、アジア大陸第2代表国。
▽同B組　ハンガリー（モスクワ4位）、スペイン（モスクワ5位）、スウェーデン（Bグループ3位）、アフリカ大陸代表国。
▽同C組　東ドイツ（モスクワ1位）、ポーランド（Bグループ1位）、アジア大陸第1代表国、スイス（Bグループ5位）
▽同D組　ルーマニア（モスクワ3位）、ユーゴ（モスクワ6位）、デンマーク（Bグループ4位）、アメリカ大陸代表国。

アジア代表、苦しい対戦

○…アジアから初めて2カ国が送られる大会だが、卒直のところ第1、第2代表とも強敵にはさまれた。
全日本男子・竹野奉昭監督は、第1シードの中ではハンガリー、第2シードの中ではスペイン、第3、4シードではスイス、アフリカ大陸代表、アメリカ大陸代表と組むのが理想といっていたが、クジ運は、味方してくれなかった。
「こうなればアジア第1代表となり、C組でスイス戦必勝を狙う以外にない」という苦しい組み分けである。
今大会から、予選リーグは各3位までが第2次リーグに進出（ベスト12）できることになっておりC組では東ドイツ、ポーランドは難敵だけに、スイスからの1勝という目算がはじかれる。
A組となると、ソ連、西ドイツチェコと、いずれも優勝を狙うチームだけに、1勝マークは、相当骨が折れる。
アジア予選をトップで勝ち抜くことが、世界12位以内確保の道にもなるわけだ。
今大会の上位5カ国には、ロサンゼルス・オリンピック出場権が自動的に与えられることになっているが、日本としては、いまの段階では、ここで一気に、その切符を狙うのは難しい。
一九八三年（昭58）に予定されているアジア予選に全力投球ということになろうか。
なお、今回の組み分けで、西ドイツが、どのような扱いをうけるか注目されていたが、結局、第2シードということで落ち着いたようだ。
西ドイツは前回優勝国、本来なら第1シードだが、モスクワ・オリンピックボイコットで、レーティングがなくなり、開催国という資格での登場。
いちおうは第3シード説や第4シード説まで飛んでいたが、やはり現チャンピオンという〝権威〟が認められた。
しかし、強豪ソ連と同組、連続優勝への道はけわしい、といえよう。
第2次（準決勝）リーグの組み分けは、1組が予選リーグAおよびC組の1～3位、2組が同BおよびD組の1～3位。
そのあと、各組同位同士で1～12位（6カード）を争う。
また、予選リーグ各組4位国で13～16位決定リーグが行われる予定だ。　（S）

全日本、フランス国際（今冬12月）に参加

日本協会は、4月30日に開いた常務理事会で、フランス協会から招待された今冬の「第8回フランス国際トーナメント(男子)」に、参加することを決めた。
同トーナメントは、今冬12月7日から13日まで、フランス協会の創立40周年記念を兼ねて開かれるもので、招待されるのは、日本のほか、西ドイツ、ポーランド、スペイン、チェコ、デンマーク、スイスの各国で、これらの国に地元フランスが加って8カ国対抗となる。
ヨーロッパ地域の招待各国は、いずれも、来春の世界選手権出場国で、なかでも西ドイツ、ポーランドは有力な優勝候補。来シーズンのヨーロッパでも有数のビッグトーナメントである。　（速報）

今秋、世界女子Bグループ

IHF(国際ハンドボール連盟)は、今年の11月28日から12月6日までデンマークで行われる第2回世界女子選手権Bグループの予選リーグ組み分けを次のように決めた。
未定の4カ国は、ブルガリア、ノルウェー、オーストリア、アイスランド、スイス、スペイン、イタリアの各国が特別試合(予選)を行って決める。Aグループは来年12月ハンガリーで行われる。
▽予選リーグA組、チェコ、西ドイツ、デンマーク、フランス、未定2カ国。
▽同B組　ポーランド、ルーマニア、オランダ、スウェーデン、未定2カ国。

小松市女，堂々たる３連覇

第４回全国高校選抜大会は，３月25日から27日まで名古屋の愛知県体育館に，男女各16校が参加して行われた。男女とも参加校の増加から，例年以上に白熱した内容の展開となり，好試合がつづいたが，男子決勝は，中京（愛知）×明星（東京）の顔合せから地元・中京が勝って初優勝，女子は小松市女（石川）が水海道二（茨城）の挑戦を退け，堂々たるＶ３を遂げた。

全国高校選抜　男子は中京が明星破り初優勝

男子

▽１回戦

小松（北信越・石川）21（11−5, 10−10）15 函館有斗（北海道）

得	【小松】		【有斗】	得
0	山本豊	GK	藤田	0
0	谷口	GK	岩上	0
5	園下	FP	永沢	1
5	中田	FP	岡井	0
4	林	FP	無量林	0
0	池田	FP	今井	0
3	岩下	FP	相馬	0
0	犬丸	FP	日吉	8
0	中江	FP	広正	0
0	山本真	FP	高桑	0
1	北木	FP	鈴木	2
3	堤	FP	武田	4
21（4）		PT		（1）15

（審・浅田 岩本）

○…立ち上り両チームともパスがつながらなかったが、前半15分あたりから小松は個人技、コンビプレーがまとまり得点を重ねた。一方、有斗は、相手GKの好守に阻まれ点差を詰めることができず前半、思わぬ点差がついた。

後半、有斗は、日吉を中心に懸命に追いあげたが、小松も10分までにPTで３点をあげるなど主導権を離さず押し切った。（中野）

明星（関東・東京）12（6−3, 6−7）10 小林工（九州・宮崎）

得	【明星】		【小林】	得
0	宇田川	GK	中窪	0
0	篠	GK	中津	0
3	新井	FP	木切倉	3
1	田野倉	FP	吉元	1
2	安藤	FP	大坪	0
3	佐伯	FP	森岡	6
1	田村	FP	田之上	0
0	立松	FP	原	0
2	長谷川	FP	福元	0
0	久松	FP	堀田	0
0	桜井	FP	入佐	0
0	北沢	FP	海老原	0
12（3）		PT		（0）10

（審・川島 森）

○…15分まで３−１というスローペース。しかし、そのあと明星が、２点連取したあたりから、にわかに活気づき、接戦となった。

３点差を追う小林工は、後半、木切倉、森岡らの好プレーで12分９−９に追いつく粘りをみせた。

しかし、明星は２本のPTと安藤で20分12−９と再び優位に立ち追いすがる小林工を振り切った。（梶田）

此花学院（近畿・大阪）17（8−5, 9−9）14 盛岡商（東北・岩手）

得	【此花】		【盛岡】	得
0	大西	GK	藤田	0
0	村林	GK	工藤	0
2	山本紀	FP	藤原	0
8	菅沼	FP	武田	2
1	盛	FP	櫛田	6
4	渡辺	FP	近谷	1
1	是沢	FP	狐崎	0
0	山本延	FP	細川	0
0	横田	FP	鷹觜	0
0	大塚	FP	首藤	5
1	石田	FP	川上	0
0	藤長	FP	岡田	0
17（5）		PT		（0）14

（審・吉田 杉本）

○…此花は序盤、菅沼のカットインと渡辺の巧技で優勢に試合を進めた。

盛岡商は、パスがなかなか廻らず、いちちは４点差をつけられたが、後半になると櫛田、首藤らのロングを主体に攻撃テンポが出、21分12−15まで詰めた。しかし、此花はあわてることなく、ローリングオフェンスから巧みにペースを握って、それ以上は相手に踏みこませなかった。盛岡商に惜しまれるのは、雰囲気にのまれたか前半17分まで１点の貧攻。

下松工（中国・山口）27（16−7, 11−10）17 県岐阜商（東海・岐阜）

得	【下松】		【岐商】	得
0	中西	GK	玉木	0
0	谷	GK	本田	0
11	香井	FP	二ノ宮	0
4	相本	FP	浅井	0
7	青木	FP	堀田	4
1	松求	FP	豊田	0
1	岡	FP	安藤	5
3	前田	FP	井川	2
0	山本	FP	山田	3
0	久木	FP	白木	0
0	兼重	FP	杉山	0
0	武居	FP	小林	3
27（2）		PT		（1）17

（審・中根 安芸）

○…岐商は好スタートを切り、安藤、山田のゴールとPTで７分３−１としたが、下松ディフェンスは、そのあと、みごとに立ちなおり、約10分間、岐商に追加点を許さなかった。

下松は攻撃も好調となり香井、前田らで一気に９ゴール、主導権を奪いかえした。

後半、両チームとも激しい攻め合いをみせたが、前半の大差に下松は余裕を示して勝った。

久留米工大付（九州・福岡）22（10−6, 12−6）12 松山西（四国・愛媛）

得	【久付】		【松山】	得
0	下園	GK	武智	0
0	中村竜	GK	白方	0
3	下川	FP	大西	4
0	中村秀	FP	関谷	2
0	田中	FP	篠原	0
0	伊藤	FP	住田	1
3	吉村	FP	青野	0
1	馬場	FP	落合	0
2	久保山	FP	芝之内	1
0	永延	FP	上野	4
10	三幸	FP	藤岡	0
3	高須	FP	三神	0
22（1）		PT		（3）12

（審・岩本 浅田）

○…好テンポで前半の幕があいたが、15分すぎからディフェンスの高さで優る久工大付が、じわじわと点差をあけ、松山西を圧倒しはじめた。

後半に入っても、この展開はほとんど変わらず、久工大付はエース・三幸のすばらしい攻撃力で、７分14−７と大勢を決め、さらに高須、吉村らが追い討ちをかけた。

松山西は、速攻にみるべきものがあったが、あと一歩、相手の守りを切り崩す力がなかった（大原）

氷見（北信越・富山）28（11−8, 17−9）17 八幡工（近畿・滋賀）

得	【氷見】		【八幡】	得
0	田中	GK	武藤	0
		GK	脇島	0
4	森	FP	宮元	6
3	桜打	FP	清水	7
3	山本	FP	中條	3
5	西山	FP	奥田	1
2	大石	FP	辻	0
1	魁	FP	茶木	0
10	林	FP	村井	0
0	島内	FP	森	0
0	大森	FP	森野	0
		FP	増倉	0
28（4）		PT		（4）17

（審・川島 森）

○…互いのミスからチャンスをつかみ14分６−６の乱戦。

氷見は前半20分すぎから西山の巧技で点差をあけ、後半になると山本に当りが出て先行した。

八幡工も、後半10分13−17と粘っていたものの、守りの柱・増倉が欠場（病気）したこともあって氷見のスピードをかわし切れない場面が多くなり、後半なかば以後は、やや一方的な経過となった。（市石）

青森商（東北・青森）32（15−8, 17−8）16 倉敷商（中国・岡山）

	倉敷	得		青森	得
GK	田口	0	GK	山田	0
GK	風早	0	GK	小塚	0
FP	松浦	0	FP	堀内	7
FP	杉野	3	FP	斎藤	5
FP	小橋	1	FP	高田	0
FP	小中	0	FP	田辺	5
FP	宮崎	0	FP	山口	3
FP	笠原	6	FP	張山	9
FP	石井	3	FP	鶴谷	0
FP	岸本	3	FP	神	0
FP	佐藤	0	FP	福田	0
FP	藤井	0	FP	佐藤	3

（審・吉田・杉本）

32（3） PT （2）16

○…有力といわれる青森がスケールの大きい攻撃で、前半早々と勝負を決めてしまった。

倉敷は立ち上り笠原、杉野で5分3－3としたものの、そのあとは、思い切って射ってくる相手の攻めに、ディフェンスがあと一歩の詰めを欠き、失点がつづいた。

後半も、青森の集中攻撃が冴え10分22－11と大差がついた。

両チーム合わせて退場3、警告8は感心できない。（中野）

中京 25（8－6、17－11）17 富岡
（開催地・愛知）（関東・群馬）

	富岡	得		中京	得
GK	石井	0	GK	河合	0
GK	寺山	0	GK	福島	0
FP	広岡	3	FP	近藤	1
FP	作藤	0	FP	河原	10
FP	相川	5	FP	桐木	3
FP	吉田	2	FP	西岡	1
FP	新井	3	FP	今野	2
FP	秋山	4	FP	山村	2
FP	風間	0	FP	横井	0
FP	茂木	0	FP	酒井	5
FP	桜井	0	FP	牧野	1
FP	岡田	0	FP	佐治	0

（審・安芸・中根）

25（4） PT （1）17

○…中京は1－2から2本のPTで逆転してから落ちつき、15分6－2と優位に立った。

富岡も広岡、秋山らの活躍で、後半に期待をつなぐ反撃を示したが、中京は、後半スタートと同時に一気のたたみかけをみせ、河原の速攻などで、いきなり5点、13－6と富岡を突き放した。

富岡は、最後まで粘りこんだものの、後半開始直後のダメージは大きく、反撃しきれなかった。（梶田）

氷見、久工大付に逆転勝ち

▽準々決勝

明星 19（12－6、7－7）13 小松

	小松	得		明星	得
GK	山本一	0	GK	宇田川	0
GK	谷口	0	GK	篠	0
FP	大丸	0	FP	新井	7
FP	岩下	3	FP	佐伯	3
FP	池田	0	FP	田野倉	1
FP	林	2	FP	田村	3
FP	中田	4	FP	完藤	4
FP	園下	3	FP	立松	0
FP	山本真	0	FP	北沢	0
FP	中江	0	FP	桜井	0
FP	堤	1	FP	久松	0
FP	北本	0	FP	長谷川	1

（審・細井・藤原）

19（2） PT （1）13

○…明星は新井のロング、小松は中田のサイドシュートで点をとりあい互角のスタート。

しかし、時間の経過とともに、明星のスピード豊かなロング攻撃とダブルポストによる攻撃を、小松守備陣が捌き切れなくなり、点差があきはじめた。

後半になっても、明星は好調に攻め、しかも、ディフェンスで相手の得点を前半20分から後半14分25秒まで封じこむなどあって快勝した。

小松は前半、攻めが単調となり相手に主導権を奪れたのが敗因。

下松工 22（8－10、8－6、…、5－1、1－2）19 此花学院

	此花	得		下松	得
GK	大西	0	GK	中西	0
GK	村木	0	GK	谷	0
FP	大塚	2	FP	前田	0
FP	山本延	1	FP	岡	2
FP	山本紀	2	FP	松永	0
FP	菅沼	9	FP	青木	12
FP	盛	0	FP	相木	4
FP	渡辺	3	FP	香井	4
FP	是沢	1	FP	山本	0
FP	横田	0	FP	久本	0
FP	石田	1	FP	武居	0
FP	藤長	0	FP	兼重	0

（審・安芸・中根）

22（8） PT （2）19

○…延長後は下松が香井、青木（PT）で押しまくったが、前、後半の50分間は、まれにみるせりあいだった。

前半は、此花が15分すぎの3点連取でペースを握ったが、後半、下松は相手の攻撃源・菅沼、渡辺をマン・ツウ・マンでおさえ、12分14－14とした。

下松は、さらに相本で15－14と逆転したのだが、此花も奮起、14分石田でタイのあと、16分菅沼が決めて16－15と再び先行した。

緊迫したムードから、互いに点がとれず、此花の逃切りが予想されたが、下松は残り2分30秒香井が貴重な同点ゴール、延長へもつれこんだ。

延長後は波にのった下松が、いきなり3点連取、GK中西の好守もあって此花をおさえた。

好試合といえたが、エキサイトしすぎてラフプレーが多かったのは残念。（下山）

氷見 16（8－8、8－6）14 久留米工大付

	久付	得		氷見	得
GK	下関	0	GK	田中	0
GK	中村竜	0	GK		
FP	下川	1	FP	森	5
FP	中村秀	0	FP	桜打	1
FP	馬場	1	FP	川崎	0
FP	吉村	3	FP	山本	3
FP	伊藤	0	FP	大石	0
FP	三幸	4	FP	西山	3
FP	高須	4	FP	魁	3
FP	久保山	1	FP	林	1
FP	永延	0	FP	鳥内	0
FP	田中	0	FP	大森	0

（審・細井・藤原）

16（4） PT （2）14

○…氷見の鮮やかな逆転勝ちだった。

残り5分、12－14とリードされていた氷見は22分のPTで同点にしたあと23分桜打、24分54秒山本が土たん場でみごとなシュートを決め、久工大付を打っちゃった。

久工大付は、立ち上りこそペースがつかめずもたついたが、後半5分10－10から久保山、高須、三幸（PT）とみごとなたたみかけで13－10、ペースをつかんだかに思えた。結果的には、このあと約9分、追加点のなかった拙攻が、勝利を逃すことになった。氷見の地味な守りが賞される。（大原）

中京 18（10－6、8－9）15 青森商

○…優勝候補同士らしい力のこもった一戦は、残り6分14－14と予断を許さなかったが、中京は河原の切りこみで勢いづき3点連取21分17－14、青森も22分張山で返し、なお粘ろうとしたが、中京は23分河原がダメ押しゴール、ケリをつけた。

	青森	得		中京	得
GK	山田	0	GK	河合	0
GK	小塚	0	GK	福島	0
FP	張山	5	FP	近藤	0
FP	山口	1	FP	河原	8
FP	田辺	2	FP	桐木	3
FP	高田	0	FP	山村	1
FP	斎藤	6	FP	今野	0
FP	堀内	1	FP	西岡	1
FP	佐藤	0	FP	横井	0
FP	神	0	FP	佐治	0
FP	鶴谷	0	FP	牧野	0
			FP	酒井	5

（審・杉本・吉田）

18（3） PT （1）15

前半のデキからすれば、順当な結果ともいえるが、青森のみせた後半の反撃は迫力に満ちたもので張山、斉藤、山口らで一気に劣勢を挽回、17分14－14とした試合ぶりは見事だった。それだけに、前半の動きの鈍さが悔やまれよう。

逆に中京は、前半の好調がなんとしても大きかった。

下松工、延長で力つきる

▽準決勝

明星 25（8－8、9－9、…、4－1、4－1）19 下松工

	下松	得		明星	得
GK	中西	0	GK	宇田川	0
GK	谷	0	GK	篠	0
FP	前田	0	FP	新井	2
FP	岡	0	FP	立松	1
FP	松永	1	FP	田村	4
FP	青木	8	FP	佐伯	8
FP	相本	4	FP	安藤	6
FP	香井	6	FP	田野倉	3
FP	山本	0	FP	長谷川	1
FP	久本	0	FP	久松	0
FP	兼重	0	FP	桜井	0
FP	武居	0	FP	北沢	0

（審・森・川島）

25（1） PT （2）19

○…下松がとると明星がとり返す展開で16分5－5。ともにPTの失敗があってどう

しても大きな先行が出来ず、点差が開いたのは後半5分の11－9明星。

しかし、これも下松がすぐ反撃して、14分逆に15－12と優位に立った。

明星は相手の執ような守りに攻め口をふさがれていたが、反則退場などから反撃に転じ21分16－16とした。

下松は24分香井のゴールで17－16、逃げ切り濃厚だったが、明星も粘り、残り28秒佐伯が同点シュット、延長に入った。

延長後、下松は、後半からとりつづけていたマン・ツウ・マンで明星のペースを崩そうと狙ったが、このプレーになれた明星は1分18－18から田村、立松、安藤が切りこんで連続ゴール、ようやくペースを握れた。

下松は6分30秒松永で19－21と反撃の期待をもたせたが、そのあと明星・安藤の攻撃をうけて、万事休した。

互いに粘りのある攻守を応しゅう。なかなか見応えがあった。（藪野）

中　京 19（8－6、11－10）16 氷　見

○…試合開始と同時に両チームとともに足を使い、すばらしい攻撃をぶっつけ合ったが、守りではやや粘りに欠けた。

ことに、氷見は、一線ディフェンスの間を相手に走りこまれ得点を奪われた。

好調にみえた中京も、後半5分10－8のあとあたりから帰陣が遅れ出し、巧者の氷見はすかさず速攻、9分10－10から10分PTで11－10と逆転に成功した。

こうなると氷見に流れが移り、17分16－15と前進、中京は苦しいとみえた。

しかし、中京は19分PTで16－16としたことから余裕が戻り、21分酒井で17－16と久々に先行、ディフェンスも立ち直って、氷見の攻撃をおさえこんだ。

氷見は、エース林を中心に、懸命に粘ったが、勢いづいた中京から、二度の逆転は難しかった。

いかにも高校生らしい力のこもった一戦。（中島）

得	【中京】		【氷見】	得
0	河合	GK	田中	0
0	福島			
7	河原	FP（審・杉木、吉田）	森	4
1	近藤		桜打	4
0	西岡		山木	2
2	桐木		西山	0
3	山村		大石	0
2	今野		魁	1
0	横井		林	5
3	酒井		大森	0
0	佐治		鳥内	0
1	牧野			
19	（3）	PT	（3）	16

明星、後半の反撃遅し

▽決勝

中　京 17（11－5、6－9）14 明　星

○…先取点は3分河原のサイドで中京。

得	【中京】		【明星】	得
0	河合	GK	宇田川	0
0	福島		篠	0
1	近藤	FP（審・杉木、吉田）	新井	1
5	山村		田野倉	3
5	河原		安藤	3
1	今野		佐伯	3
0	西岡		田村	1
2	桐木		立松	3
0	横井		北沢	0
3	酒井		桜井	0
0	牧野		久松	0
0	佐治		長谷川	0
17	（1）	PT	（1）	14

しかし、明星も6分速攻から安藤で同点、決勝らしい緊迫ムードと思えたが、そのあと中京は、河原、山村が交互に好シュートを決めあって、あっという間に6点のリードを奪った。

明星も安藤、佐伯らのシュートが決まり出し21分4－8としたがもう一歩追いこめず、最終的にはここでの反撃不足が、試合を失うことにもなった、といえる。

後半も中京は、地元のプレッシャーもなく、のびのびと戦かい、10分15－6、大勢を決めたかと思ったが、さすがに明星。立松、田野倉らが、相手のミスからなだれこんで20分13－16と驚くべき反撃をみせた。

明星に惜しまれるのは、大逆襲の最中、こともあろうに田野倉が反則退場、さらに田村も退場を課せられたことだ。

中京は、23分酒井が10分ぶりでゴール、17－13として、やっと〝優勝〟を確実なものにした。

明星の粘りで盛り上ったが、前半の点差の開きがなければ、さらにすばらしい決勝戦になったであろう。（竹内）

中京・横井保信監督の話　試合前、優勝はまったく考えなかった。ウチのよい所が出ればそれでよいと選手にいっておいたが、前半7分から7～8分間で連続6点取れた場面は、申し分なかった。

この優勝に恥じないように、夏（高校総体）も頑張りたいが、桜台や愛知など強豪の多い県予選を突破するのが大変だ。

今夏に日中高校交流か

日本体協が名古屋で予定

日本体協は、今夏、日本で「アジア青少年スポーツ交流」と銘打って高校スポーツの「日中対抗」と「日韓対抗」を行うことに決めた模様で、ハンドボールは、名古屋に予定される「日中対抗」に含まれる可能性が強い。

この情報は、本誌編集委員会が高校スポーツ界に詳しい筋から得たもので、期日は、8月20日すぎの二－三日間。

ハンドボールが男女とも実施されるのか、中国側は、「高校」チームなのか、あるいは日本の高校生の年令に合わせたユースチームなのかなど、細部については、分かっていない。

早ければ、6月上旬の日本体協理事会で発表が行われよう。

水海道二、再三の反撃実らず

決勝

女子

▽1回戦

熊本女商（九州・熊本）11（6－3 5－3）6 徳山（中国・山口）

得	【熊本】		【徳山】	得
0	岩井	GK	安堂	0
0	那須	GK	野村	0
0	泉	FP	藤田	3
0	平岡	FP	中村由	1
0	吉川	FP	和西	1
0	上田	FP	原田	1
1	河田	FP	岡村	0
0	磯崎	FP	金田	0
3	林田	FP	福田	0
6	河野	FP	田中	0
1	田中	FP	徳原	0
0	田副	FP	中村弘	0

（審・竹内 有岡）

11（4）PT（0）6

○…後半1分、徳山は和西のゴールで4－6、興味をいだかせたが、熊本は4分PTのあと5分河田、8分河野と連取、9－4と引き放した。

徳山は、点差を詰めたあと福田が反則退場を食い、その間に失点したものだ。

徳山、藤田、熊本、河野の両エースが切れ味のよい攻撃をみせ、有力チーム同士らしい好テンポの試合といえた。（長縄）

彦根西（近畿・滋賀）8（2－4 6－2）6 暁（東海・三重）

○…暁が巧みなローリング・オフェンスでチャンスを活かしたのに対し、彦根西は速攻のボールつなぎが悪く、前半はPTの2点だけだった。

得	【彦根】		【暁】	得
0	元持	GK	岩渕	0
0	谷	GK	木田	0
0	久保田	FP	高橋	1
5	西河	FP	谷渕	1
2	辻令	FP	宮田	0
0	辻美	FP	中村	1
0	成宮	FP	佐久間	1
0	田村	FP	石崎	0
1	大西	FP	清水	2
0	柿添	FP	植田	0
		FP	佐藤	0
		FP	原田	0

（審・大橋 吉田）

8（3）PT（1）6

ところが、後半に入ると、彦根西はディフェンスの立ち直りもあって、攻撃にもまとまりが見えはじめ6分同点（4－4）のあと、7分西河で逆転、暁は9分大西がタイにこぎつけたが、流れに乗った彦根西は、そのあと連続3ゴール、大型チームらしい勝ちっぷりを見せた。（杉村）

水海道二（関東・茨城）13（4－6 9－5）11 有磯（北信越・富山）

得	【水二】		【有磯】	得
0	吉栗	GK	水谷	0
0	中山	GK	野田	0
0	寺田	FP	田中	3
2	石塚	FP	柿埜	0
0	飯野	FP	星場	1
1	小口	FP	丸山	1
0	猪瀬	FP	宮本	0
0	野上	FP	綱	0
2	関	FP	安井	3
8	下條	FP	丹金	0
0	塚原	FP	谷内	0
0	渡辺	FP	十丸	3

（審・岩永 笹野）

13（1）PT（4）11

○…好試合。序盤、激しい点の奪い合いから有磯が、鋭いフットワークを活かし次第に主導権を握った。

しかし、水海道二は、後半開始と同時に反撃、3分7－6と逆転リズムをつかんだかにみえた。

ところが、一気に突き放すことが出来なかったため、再び有磯ペースとなり、有磯は、10分9－8から二本のPTで3点差をつけ、そのまま押し切るものと思われた。

だが、ドラマはこのあともう一つあった。

粘る水海道二は、14分下條のゴールで元気を取り戻し、関の連続得点で同点(11－11)、さらに下條がPTを含めた2点連取で、あっという間にゴールへとびこんだ。水海道二の9点目から13点目まではわずかに4分25秒。十丸、田中らで頑張った有磯にとっては悔いの残る試合だったろう。（松浦）

秋田和洋女（東北・秋田）16（6－5 10－4）9 大正（四国・高知）

得	【和洋】		【大正】	得
0	金	GK	小野川仁	0
2	角田	FP	平野	0
0	馬場	FP	小野川育	7
1	堀岡	FP	芝	0
6	村井	FP	森	2
7	桜庭	FP	岡本	0
0	柴田	FP	上居	0
0	斉藤	FP	吉良	0
0	今木屋	FP	谷脇	0
0	小坂	FP		
0	伊藤	FP		

（審・藤原 細井）

16（2）PT（1）9

○…昨夏のインターハイで旋風を巻き起こした大正は、小野川のロングを切り札に、和洋を苦しめ、後半10分7－9はそのさきの展開を楽しみにさせたのだが、和洋守備陣は、小野川を好マークする一方、桜庭、村井のみごとな攻撃力で一気に加点、粘ろうとする相手をねじ伏せた。

大正は、得点源が一人に片寄りすぎてはいたが、全員最後まで勝負を捨てず、夏への期待をかけさせた。（楓）

涌谷（東北・宮城）12（6－2 6－0）2 真備（中国・岡山）

得	【涌谷】		【真備】	得
0	佐々木	GK	中川	0
0	砂金	GK	光森	0
5	高橋	FP	津川	2
3	成沢	FP	岡	0
0	安部初	FP	伊達	0
0	和賀	FP	山口	0
3	今野	FP	井上い	0
0	菅原	FP	中島	0
0	山口	FP	井上幸	0
0	佐藤	FP	中村	0
0	安部幸	FP	大源	0
1	大村	FP	奥田	0

（審・竹内 有岡）

12（1）PT（0）2

○…両チームとも固さが、なかなか脱け切らず、涌谷は今野、真備は津川のシュート力に頼りあう単調な展開となった。

後半になると、涌谷が、リズムに乗ったのに対し、真備は、もう一つスピードがなく、涌谷ディフェンスを攻めあぐんで、前半16分以降、ついにノーゴールに終ってしまった。

ディフェンスの差というより、攻撃面でのスピード差が、勝負を分けた。（松浦）

名古屋短大付（開催地・愛知）12（5－3 7－7）10 粉河（近畿・和歌山）

得	【名短】		【粉河】	得
0	田中	GK	杉本	0
5	柴田	FP	岡山	0
2	原	FP	栂野	2
0	小島	FP	三浦	0
0	見口	FP	上岡	0
1	近藤	FP	仲	7
1	森山	FP	和田	1
3	石田	FP	木村	0
0	室岡	FP	松浦	0
0	若原	FP	伊藤	0
		FP	西本	0

（審・大橋 吉田）

12（2）PT（0）10

○…名短大付は、いきなり4点をもぎとる好スタートだったが、そのあと、追加点が思うにまかせず、粉河のエース・栂野のロングが決まり出したこともあって、後半9分7－7の振り出しに戻る激戦となった。

好調の粉河はさらに仲らで2点を加え逆転する勢いをみせたが、名短大付は柴田、石田がサイドからの攻撃を成功させ12分同点（9－9）、15分石田で再び先行（11－10）したあと、16分PTでダメ押し、逃げこんだ。（松本）

小松市女（北信越・石川）19（10－1 9－3）4 大分東（九州・大分）

得	【小松】		【大分】	得
0	吉田	GK	中川	0
0	新宅	GK		
1	藤田裕	FP	鈴木	0
2	高田恭	FP	徳重	0
3	和田	FP	甲斐	1
2	中川	FP	若林	0
0	大森	FP	渡辺	0
3	高木	FP	藤内	0
6	藤田佑	FP	権原	1
0	高田佐	FP	三代	0
1	川端	FP	実崎	2
1	浅川	FP		

（審・笹野 岩永）

19（3）PT（0）4

○…かつて夏の日本一を争った

ことのある両校の激突だったが、総合力に優る小松が、固いディフェンスからの速攻と、セットオフェンスではスピーディなパスワークで大分東をゆさぶり前半3分藤田(佑)のゴールに始って18分までに連続9ゴール、一気に大勢を決めてしまった。

一方、大分東もよく動き、ボールを廻すのだが、決め手に欠け、小松の勢いの前に、勝機を一度もつかめぬまま退いた。敗れたなかで大分東GKの健闘が光る。（松浦）

昭和学院（関東・千葉）14（6－5 8－1）6 函館女商（北海道）

【函館】		得
GK	米田	0
GK	楠戸	0
FP	佐藤	0
FP	江川	1
FP	藤田	4
FP	坂井	1
FP	原田	0
FP	棟方	0
FP	合野	0
FP	長谷川	0
FP	永友	0
FP	米坂	0

【昭学】		得
GK	羽深	0
GK	松谷	0
FP	高坂	4
FP	土屋	0
FP	田中	5
FP	清水	0
FP	小野	0
FP	高野	0
FP	進藤	2
FP	菅谷	3
FP	須賀	0
FP	丸山	0

（審・細井・藤原）

14（3） PT （3）6

○…前半は文字通りの一進一退。函館はサイド攻撃とロング、昭和は速攻を中心にしてゆずらなかった。

前半終了間ぎわ、PTで先行した昭和は、後半開始と同時にスパート、3分田中に始って、13分まで一気に6ゴール、12－5と大勢を決めた。

函館は、後半、3点差あたりから攻め急ぎが目立ち、相手の固い守りに阻まれては逆襲をうけ、かえって傷口を拡げてしまった。（杉村）

水海道二、和洋女押し切る

▽準々決勝

熊本女商 18（8－4 10－7）11 彦根西

【彦根】		得
GK	元持	0
GK	谷	0
FP	田村	3
FP	成宮	2
FP	辻美	0
FP	辻令	1
FP	西河	5
FP	久保田	0
FP	大西	0
FP	柿添	0

【熊本】		得
GK	岩井	0
GK	那須	0
FP	泉	0
FP	平岡	1
FP	吉川	0
FP	上田	1
FP	河田	0
FP	磯﨑	0
FP	林田	9
FP	河野	6
FP	田中	1
FP	田副	0

（審・岩本・浅田）

18（2） PT （3）11

○…林田、河野の二人のロングシューターを持つ熊本と、ポストプレーを主体する彦根西の対戦は互いに持ち味を発揮し合い、15分5－4の接戦。

わずかに先行した熊本は、16分のPTで、余裕が生まれ、特にディフェンスが引き締まった。

後半に入っても、熊本が好ペースを持続、林田の3点連取などあって10分14－8、勝利を動かないものとした。

最後まで全力をつくした彦根西の健闘をたたえたい。（松浦）

水海道二 13（4－4 9－4）8 秋田和洋女

○…優勝候補同士の対戦らしい緊迫したムードの前半は、互いに相手のディフェンスを崩し切れず動きという点で、やや物足りなさがあった。

【和洋】		得
GK	金	0
FP	柴田	0
FP	桜庭	1
FP	村井	4
FP	堀岡	1
FP	馬場	1
FP	角田	0
FP	斉藤	1
FP	今木屋	0
FP	小坂	0
FP	伊藤	0

【水二】		得
GK	吉葉	0
GK	中山	0
FP	寺田	0
FP	石塚	1
FP	飯野	0
FP	小口	5
FP	野上	0
FP	猪瀬	2
FP	下條	5
FP	塚原	0
FP	関	0
FP	渡辺	0

（審・笹野・岩永）

13（2） PT （1）8

後半になると、水海道二は下條を、秋田は村井を前面に押し立てて、鋭い攻撃の応しゅうとなったが、水海道二は小口がよく当って下條を助け10分9－6と先行した。

秋田は、まだまだ反撃のチャンスが残っていたのだが、最後の詰めに荒さがのぞき、約5分間無得点、この間に、水海道二に2点を奪われたのが、大きく響いた。（中島）

名古屋短大付 16（9－3 7－1）4 涌谷

【涌谷】		得
GK	佐々木	0
GK	砂金	0
FP	菅原	0
FP	今野	1
FP	和賀	0
FP	安部初	0
FP	成沢	2
FP	高橋	1
FP	山口	0
FP	佐藤	0
FP	大村	0
FP	安部幸	0

【名短】		得
GK	田中	0
FP	柴田	4
FP	原	3
FP	森山	2
FP	近藤	0
FP	見口	2
FP	小島	1
FP	石田	4
FP	室岡	0
FP	若原	0

（審・大橋・吉田）

16（5） PT （0）4

○…動きの重い涌谷に対して、キビキビとした名短大付は、詰めの早い固いディフェンスからの速攻で7分3－3のあと連続6ゴール、主導権を握った。

後半になっても、涌谷は動きの鈍さから脱せず、名短大付の矢次ばやの速攻を許し、10分14－3と思わぬ大差がついた。

スタートは、互いに取っては取り返すせり合いをみせ、好試合を予想させたのだが、自滅ともいえる涌谷の低調から、やや内容の乏しいゲームになってしまったのは惜しまれる。（松浦）

小松市女 9（3－1 6－3）4 昭和学院

【昭和】		得
GK	羽深	0
GK	松谷	0
FP	高野	0
FP	菅谷	1
FP	進藤	2
FP	高坂	1
FP	土屋	0
FP	田中	0
FP	清水	0
FP	小野	0
FP	丸山	0
FP	須賀	0

【小松】		得
GK	吉田	0
GK	新宅	0
FP	藤田佑	0
FP	藤田裕	0
FP	高木	3
FP	高木恭	1
FP	和田	3
FP	中川	2
FP	大森	0
FP	浅川	0
FP	川端	0
FP	高田佐	0

（審・有岡・竹内）

9（0） PT （0）4

○…前半10分までの得点は、4分昭和が菅谷であげた1点だけ、静かな滑り出しとなった。

しかし、そのあと、小松は、和田がパスカットから速攻を決めたのをきっかけに、にわかに激しい動きをみせるようになり、13分和田、18分中川と、着実にチャンスをモノにした。

一方、昭和は、せっかく先取点をあげながら、そのあと、相手ディフェンスの厚さに手を焼き、パタリと追加点が止まった。

こうなると、小松ペースだ。後半10分までに3点を加え6－1、昭和は、残り5分となってから

高坂、進藤らがシュートを決めたものの、勝利を得るには、あまりにも遅い発火だった。（梶田）

名短大付、急迫及ばず

▽準決勝

水海道二 10（6—5, 4—3）8 熊本女商

【熊本】		得
GK	岩井	0
GK	那須	0
FP	河野	4
FP	林田	3
FP	泉	0
FP	平岡	0
FP	吉川	0
FP	田中	0
FP	田副	0
FP	上田	0
FP	河田	1
FP	磯崎	0

【水二】		得
GK	吉葉	0
GK	中山	0
FP	寺田	1
FP	下條	4
FP	飯野	2
FP	石塚	0
FP	小口	3
FP	猪瀬	0
FP	野上	0
FP	関	0
FP	塚原	0
FP	渡辺	0

（審・吉田 大橋）

10（2）PT（1）8

○…両チーム気迫のこもったすばらしい試合だった。

立ち上りは、水海道二が圧倒的に優勢。3分飯野のゴールを口火に10分5—1と先制した。

熊本は、エース・河野の好シュートで徐々に加点、守りの立ち直りもあって19分5—5と追いついた。

しかし、ハーフタイム直前、水海道は下條のロングで貴重な勝ちこし点を奪い、後半へ、気分のゆとりを持たせた。

はたして、後半、水海道は小口を中心に動きがいっそう滑らかとなり4分8—5と好ペース、熊本は4、11分林田が返して粘りこんだが、水海道は手固く2点をあげて優位をキープ、15分10—8と迫られたあとの5分間を、すばらしい守りでおさえこみ、決勝進出をはたした。

熊本は、立ち上り、あっさり先行を許したことと、後半、攻撃が散発的になったため、惜しいところで試合を失った。（松浦）

小松市女 13（7—4, 6—4）8 名古屋短大付

【名短】		得
GK	田中	0
FP	柴田	2
FP	原	4
FP	小島	0
FP	見口	0
FP	近藤	0
FP	森山	2
FP	石田	0
FP	室岡	0
FP	若原	0

【小松】		得
GK	吉田	0
GK	新宅	0
FP	藤田裕	1
FP	高木	4
FP	藤田佑	4
FP	高田佐	0
FP	和田	3
FP	中川	1
FP	大森	0
FP	川端	0
FP	高田恭	0
FP	浅川	0

（審・中根 安芸）

13（5）PT（4）8

○…小松が高木の連取などで4—1とした点差を、名短大付は原のミドルを中心にして追いあげ、スピーディな序盤となった。

しかし、高さに優る小松は、攻防両面で、この特色をいかんなく発揮、チャンスを活かしながら、要所でディフェンスを固めて後半5分8—5と優位に立った。

このあと、名短大付は二本のPTで一気に1点差、コートサイドを沸かせたのだが、小松は焦ることなく、和田のサイドとPTなどで連続4ゴール、食い下ろうとする相手を、あっさり突き放した。

両チームともGKのデキがよく、いっそう試合を締めたものにした。（細川）

歴代優勝校

	男子	女子
第1回（昭53）	岩国工（山口）	涌谷（宮城）
第2回（昭54）	中大付属（東京）	小松市女（石川）
第3回（昭55）	岩国工（山口）	小松市女（石川）
第4回（昭56）	中京（愛知）	小松市女（石川）

小松、巧みな試合運び

▽決勝

小松市女 9（4—2, 5—4）6 水海道二

【水二】		得
GK	吉葉	0
GK	中山	0
FP	寺田	0
FP	石塚	0
FP	小口	3
FP	飯野	0
FP	野上	0
FP	猪瀬	0
FP	下條	3
FP	塚原	0
FP	関	0
FP	渡辺	0

【小松】		得
GK	吉田	0
GK	新宅	0
FP	藤田佑	1
FP	和田	2
FP	高木	5
FP	高田恭	1
FP	高田佐	0
FP	藤田裕	0
FP	中川	0
FP	大森	0
FP	浅川	0
FP	川端	0

（審・岩本 細井）

9（2）PT（0）6

○…さすがに決勝戦とあって両チームとも立ちあがりは慎重に動いた。

そのために、得点は10分で1—1、どちらが先に固さがほぐれるかが、試合の行く手の一つのカギと思われた。

先手は小松が取った。11分高木がロング、12分高田が倒れこみ、14分再び高木がロングをとばして4—1。水海道二も16分下條で2点差とし、後半への興味を盛りあげる。

後半、水海道は、1分、4分小口のゴールで同点、ディフェンスの動きもよくなって、互角の戦況に持ち直した。

しかし、地力のある小松は、前半14分以降止まっていた得点が、7分のPTで動き出し、8分和田で6—4。水海道も、すぐに下條が打ち返し5—6、決勝戦らしい高潮したムードとなった。

結果的には、このあとの5分間が大きな勝負どころ。

小松が13分藤田(佑)、14分高木でポイントをあげ8—5としたのに対し、水海道二は16分のPTを落とし、追撃の糸口が切れた。

それでも、水海道二は17分小口で6—8と粘り、あるいはと思わせたのだが、余裕ののぞく小松はタイムアップ寸前のPTを高木がていねいに決めて、3連勝を決めた。

勝負を分けたのは、ディフェンスの差だったが、ともに、相手の守りを切り崩そうと果敢に攻め合う、さわやかな決勝戦だった。（杉村）

小松市女・谷口俊春監督の話

基本的なプレーでミスの目立つ大会だったが、チームワークでなんとかそれを補えた。

決勝戦は、主力選手に故障もあり苦しかったが、夏（高校総体）への課題を残しておいたほうがよいかもしれない。

もういちど、鍛えなおすつもりです。

造幣公社に勝ち越し許す

～日韓社会人交流～

男子も日本勢は全敗

世界選手権予選の前哨戦として注目された第8回（女子第9回）日韓社会人交流は、韓国から男子・社会人選抜、女子・韓国造幣公社の両チームが来日して3月22日～29日の5日間、各5試合が行われた。

男子は、韓国ナショナル8人を含んだ来日チームの、いきのよい攻守が、親善ムードの日本勢を圧倒、注目の全日本ジュニアも完敗を喫し、一つの白星もあげられなかった。

一方、女子は、単独チーム同士が火花を散らしあったが造幣公社がわずかに優勢、3勝2敗で勝ちこした。第1回からの通算は、男子が日本側の40戦21勝2分17敗、女子が日本側の43戦26勝1分16敗。

▽男子第1戦（3月22日・日新製鋼呉体育館）

韓国社会人選抜 32（21―10、11―7）17 呉選抜

○…呉は5分PT（西川）、7分吉見で2―1と上々の立ち上りだったが、スピードに優る韓国の攻撃を、しだいに守り切れなくなり

得	【呉（広島）選抜】		【韓国】	得
0	田中（呉教職員）	GK	金良鉱	0
0	西川浩（日新製鋼）	GK	林圭夏	0
3	西川民（海上自呉）	FP	成永俊	0
5	古見（日新製鋼）	FP	姜徳寿	1
3	徳田（日新製鋼）	FP	姜世容	1
0	日野（日新製鋼）	FP	朴秉洪	12
2	森（日新製鋼）	FP	李尚雨	5
1	下茂（呉ベアーズ）	FP	姜泰求	5
1	池田（海上自呉）	FP	李相孝	2
1	村川（呉ベアーズ）	FP	朱参者	1
0	檜川（呉同好会）	FP	崔太燮	5
1	長谷（呉教職員）	FP	朴敬守	0
17	（2）	PT	（3）	32

（審・東、中本）

21分7―7から連続4失点、主導権を奪われた。

それでも呉は、後半5分までなんとか食い下っていたのだが、韓国は、17才の朴秉洪が、昨夏の来日（東亜高）以上の鋭い動きをみせて得点を叩き出し、10分17―9と大差をつけて、勝利を決めた。

◇

▽同第2戦（3月24日・大阪ガス体育館）

韓国社会人選抜 38（20―5、18―7）12 近畿実業団選抜

○…前半15分6―9は、近畿にとって、そのさき望みのある展開だったが、韓国はディフェンスのまとまりで、近畿の加点を防ぐ一

得	【近畿実業団】		【韓国】	得
0	大谷（神戸製鋼）	GK	金	0
0	森（大阪ガス）	GK	林（圭）	0
4	塩崎（丸善石油）	FP	林（英）	6
2	池辺（日鉄建材）	FP	成	2
4	若本（日鉄建材）	FP	姜（徳）	7
1	善岡（丸善石油）	FP	姜（泰）	6
0	竹内（大阪ガス）	FP	李（尚）	4
0	板井（住友銀行）	FP	朱	1
1	加古（丸善石油）	FP	姜（世）	0
0	杉本（日鉄建材）	FP	李（相）	5
0	岩本（大阪ガス）	FP	朴（秉）	1
0	山崎（神戸製鋼）	FP	崔	6
16	（2）	PT	（5）	38

（審・井上、光島）

◇その他の出場者【近】FP内藤（日鉄建材）、奥野（大阪ガス）＝ともに得0、

方、李相孝の果敢な攻撃などで、点差を開き、特に25分13―7のあとの連続5点は、まさに、あっという間のプレーで、力の差を見せつけた。後半は、前半以上の一方的な経過。

◇

▽同第3戦（3月26日・愛知県体育館）

韓国社会人選抜 32（18―9、14―4）13 愛知実業団選抜

○…愛知は選抜の弱点をのぞかせ、攻撃にまとまりがなく、守っても連けいを欠いて無理なプレーが多かったためPTを課せられ、前半14失点のうち6本がPTだった。

後半、愛知はなんとか点差を詰めようと頑張ったが、韓国も攻め手をゆるめず、大差がついた。

得	【愛知実業団】		【韓国】	得
0	玉津（トヨタ自工）	GK	圭（林）	0
0	山本（大同特殊鋼）	GK	金	0
4	田口（大同特殊鋼）	FP	林（英）	3
1	田中（大同特殊鋼）	FP	成	0
1	花田（豊田工機）	FP	姜（徳）	0
2	小野（大同特殊鋼）	FP	朴（敬）	2
2	浦田（大同特殊鋼）	FP	崔	10
1	中島（トヨタ車体）	FP	李（尚）	4
1	城ケ原（トヨタ自工）	FP	姜（泰）	7
1	太田（豊田合成）	FP	李（相）	5
0	山田（トヨタ車体）	FP	朴（秉）	1
0	諌山（豊田自織）	FP	姜	0
13	（0）	PT	（7）	32

◇その他の出場者【愛】FP高橋（新日鉄名古屋）、平野（新日鉄名古屋）、堀江（新日鉄名古屋）＝いずれも得0

◇

▽同第4戦（3月27日・横浜平沼記念体育館）

韓国社会人選抜 33（16―5、17―7）12 全日本ジュニア（世界ジュニア・アジア予選候補）

得	【全日本J】		【韓国】	得
0	矢内（国士館大）	GK	林（圭）	0
0	蓑輪（名城大）	GK	金	0
4	玉村（大阪体大）	FP	李（尚）	9
0	佐々木（日体大）	FP	姜（徳）	4
1	寺山（日体大）	FP	姜（泰）	5
3	中川（中大）	FP	朱	0
0	小山（早大）	FP	李（相）	2
2	松岡（大崎電気）	FP	崔	6
0	田口隆（日大）	FP	朴（秉）	0
1	田口勝（大同特殊鋼）	FP	朴（敬）	0
1	中島（筑波大）	FP	林（英）	7
0	斉藤（三陽商会）	FP	姜（世）	0
12	（0）	PT	（6）	33

（審・佐分、大塚）

◇その他の出場者【日】GK小野（大阪体大）、FP高砂（同志社大）、立木（名城大）、荷川取（中部工大）、柏原（福岡大）、山口（日鉄建材）、東江（大崎電気）＝いずれも得0

○…今シリーズ最大の焦点といえる試合だったが、全日本Jは立ち上り4―0とされた劣勢を、早く追いこもうとして射ち急ぎ、相手GK林圭夏の堅守に難なくおさえられてしまった。

ようやく10分中川、12分寺山で2点差としたが、今度は、守りが雑になり、李尚雨、崔太燮らの走りこみを許し、連続7失点、21分11―2と、勝敗の興味を失わさせた。

全日本Jは後半だけでもなんとか互角にと気負って出たが、強化合宿中の疲れと、全選手をテストしようと、ひんぱんに交替させるため、プレーにまとまりがなく、注目の一戦にしては、あまりにもあっ気ない内容で、スタンドを嘆かせた。

一方、韓国は「この試合に照準をあててきた」（柳在忠コーチ）というだけに、全員気迫のこもった攻守で、みごとな試合ぶりだった。

◇

▽同最終戦（3月28日・埼玉県志木体育館）

韓国社会人選抜 23（14―12、9―10）22 大崎電気

	【大崎】	得	【韓国】	得
GK	岡部	0	金	0
	原田	0	林(圭)	0
FP	斉藤	5	崔	5
	東江	3	朴(秉)	1
	新田	1	李(尚)	6
	長野	7	姜(泰)	7
	佐伯	4	姜(徳)	1
	松岡	2	成	0
	秋山	0	林(英)	3
	越迫	0	朱	0
	宮崎	0	李(相)	0
	園田	0	朴(敬)	0
	23			22
	(1)	PT	(2)	

○…大崎はGK原田がよく当り韓国の激しい攻撃を捌いたため大接戦、後半13分16－16と白熱したここで韓国は持ち前の粘りを守備面で発揮、大崎の出足を食い止める一方、林英喆、姜泰求の好プレーで21分22－18と優位に立った。大崎も長野、佐伯で追い上げ、残り14秒1点差としたが時間切れ、日本勢はついに1勝もあげることができず、若い韓国社会人に自信のおみやげを与えて帰すことになった。

立石、幸先よいスタート

▽女子第1戦（3月22日・熊本鹿央町体育館）

立石電機 21（14－7、7－8）15 韓国造幣公社

	【造幣】	得	【立石】	得
GK	李慶任	0	井村	1
	張世天	0	荒木	0
FP	任昌淑	1	木下	3
	李明淑	6	藪田	4
	李仁淑	4	羽立	3
	金敬愛	0	桑原	3
	河永玉	0	姫野	2
	韓福男	0	福永	1
	金順淑	0	喜久山	1
	金先玉	2	紀野	1
	姜香淑	0	岩村	1
	朱南庸	2	亀園	1
	15			21
	(4)	PT	(5)	

（審・大宮 泉）

○…遠征の疲れが残ったのか造幣は動きが鈍く、立石の容しゃない攻撃を浴びて、前半で大勢の決する意外な展開となった。

造幣は、李相玉、李京姫らの看板選手が来日しなかったため、攻撃面でのスケールが小さくなり、若手のキャリア不足もあって、立石のリードを追撃する糸口がほとんどなかった。

立石は、藪田の好調、木下、羽立らの活躍で攻撃が多彩となり、GK井村も一発投げこむなど会心のスタートだった。

◇

▽同第2戦（3月24日・大阪ガス体育館）

韓国造幣公社 34（18－3、16－9）12 大和銀行

	【大和】	得	【造幣】	得
GK	春口	0	李(慶)	0
	藤田	0	張	0
FP	宮本	0	李(明)	3
	千原	3	姜	4
	中川	2	金(順)	3
	高橋	2	金(先)	4
	門	2	宋	2
	馬渡	0	李(仁)	5
	山下	3	韓	3
	鈴木	0	金(敬)	1
	矢折	0	河	4
	松本	0	任	5
	12			34
	(2)	PT	(5)	

（審・井上 北岡）

○…造幣が本領を発揮した。3分2－1のあと、なんと連続14点一気に大和を押しつぶした。

大和の動きが悪かったにせよ、造幣の変化に富んだ攻め口は、新チームになってから三カ月とは思えぬもので、個々の選手のゲームセンスが光った。

◇

▽同第3戦（3月26日・愛知県体育館）

ブラザー工業 29（15－11、14－12）23 韓国造幣公社

	【造幣】	得	【ブエ】	得
GK	李(慶)	0	屋比久	0
	張	0	中村	0
FP	李(明)	5	杏原	3
	任	2	山村	5
	宋(仁)	7	増永	8
	金(順)	4	竹内	8
	金(先)	1	植田	3
	宋	3	則武	2
	河	0	尾崎	0
	姜	0	松下	0
	金(敬)	0	堀川	0
	韓	1	太田	0
	23			29
	(4)	PT	(0)	

（審・浅田 岩木）

○…前半15分すぎの4点連取で優位に立ったブラザーを、造幣は後半になって急追、10分18－18とした。

しかし、ブラザーは則武、増永、植田らが鋭い切れこみからゴールを奪い、15分22－18と再び主導権を握った。

造幣も金(順)の巧技などで粘ったものの、ブラザーのスピードプレーは終盤いっそう冴えて、いちちは8点差、快勝となった。

◇

▽同第4戦（3月28日・埼玉県志木体育館）

韓国造幣公社 25（14－8、11－14）22 大崎電気

	【大崎】	得	【造幣】	得
GK	藤村	0	李(慶)	0
	梅野	0	張	0
FP	西	8	任	5
	陽田	5	李(明)	6
	宮嶋	3	金(順)	4
	石井	2	金(先)	0
	渡部	1	李(仁)	7
	徳渕	3	宋	2
	山沢	0	韓	1
	嘉本	0	河	0
	松本	0	朴	0
			辺	0
	22			25
	(2)	PT	(3)	

（審・田村）

○…「どうしても勝ち越して帰る」といっていた金東善コーチの気迫が、選手にもよく伝っており前半一気のスパートによる6点差を活かして、来日成績を五分に持ち直した。

試合は後半10分17－10のあと、大崎が猛追、2点差まで追い詰めたが、造幣は19－17のあとの3点連取で主導権を離さず、反則退場を4回も課せられながら逃げ切った。

敗れたとはいえ、大崎の攻守は新シーズンでの活躍が久々に期待できるものである。

◇

▽同最終戦（3月29日・日立栃木体育館）

韓国造幣公社 20（8－10、12－9）19 日立栃木

	【日立】	得	【造幣】	得
GK	寺沢	0	張	0
	斉藤	0	李(慶)	0
FP	水上	6	李(明)	4
	大高	3	金(順)	6
	大輪	1	金(先)	0
	小根沢	2	宋	1
	前田	5	李(仁)	5
	西山	1	任	3
	吉田	1	河	0
	栗原	0	姜	0
	手打	0	金(敬)	0
	山本	0	韓	1
	19			20
	(3)	PT	(4)	

（審・山下 中山）

○…残り1分19－19から造幣は宋南庸の速攻で20－19、その直後の日立の反撃が反則で終了のホイッスル。

ともに「勝ち越し」の目標を背負っての対戦は、期待どおりの好試合。

日立は前半なかばで得たリードを巧く守って後半5分15－10と先行した。

しかし、造幣は10分、連続PTで14－13と逆転、日立も水工の活躍から再度、優位に立っなどしたが、造幣は18分同点、20分金順淑19－18でとしたのが大きく、日立に23分PT（前田）で19－19と並ばれながら、ラストチャンスを確実にモノにし、勝負強いところをみせた。

大会後記　たくましい韓国

○…またしても「韓国のたくましさ」が目立つシリーズで終った。すでに全日本女子が、韓国の壁を突き破れなくなり、高校界の実力差も、はっきりしはじめたといわれる状態のなかで、日本側がいつまでも〝韓国対策〟を建てず、なりゆきまかせの親善試合を繰り返していては、相手に自信を与えるばかりだろう。

全敗した男子は、各試合とも、いわゆる一線級の選手が出なかったため、今回の成績が即、日韓の差にはならないが、韓国の意気ごみは、相当なものがある。

その照準は、すでに来年秋のアジア大会（インド）に据えられているようで、日本も安閑としてはいられない。大崎電気の善戦を採りあげて、まだまだ大丈夫などといっていると痛い目に会おう（K）



世界のビッグゲームで、幾多のドラマを生んできたアディダス「ハンドボールウェア」。スポーツ科学に裏づけされた機能性。むだな飾りを排したアクションのためのデザイン。鍛えぬかれた肉体であるほど、それは美しい。

adidas®

HANDBALL WEAR

PRODUCED BY DESCENTE UNDER ADIDAS LICENSE

★大会ガイド

激戦の序幕は「全日本実業団」

新シーズン初の全国大会・第22回全日本実業団選手権が男子は5月2日から4日まで名古屋市の愛知県体育館に10チームを集め、女子は5月22日から24日まで大阪市中央体育館に11チームを集め、いずれもトーナメント法式で行われる。

好補強の湧永が有利

◆男子　優勝候補にあげられている湧永薬品(広島)が、比較的、楽な展望なのに比べて、大同特殊鋼(愛知)、本田技研鈴鹿（三重）日新製鋼（広島）が同ゾーンにひしめき合う組み合せ。

本田技が、前回5位になったための結果だが、この三チームのせりあいは、今シーズン初のビッグマッチにふさわしい白熱したものとなりそうだ。

大同は、GKに上村（中京大）を加えただけで大原、蒲生ら主力に変動はないが田口、田中ら若手の伸びを考えると、今年も充分〝四冠〟を狙える実力。

本田技は、GK大畑、佐々木、坂本、豊岡らに粟屋(同志社大)、三本松(国士舘大)、玉村(名城大)、三浦（法大）ら学生界のスターを加え、最高の補強と評価されている。

シーズン毎に、着実な戦力アップを示す日新との緒戦は、見応えのある攻防となろう。

この勝者がここで勢いづけば、3連勝目指す大同も、すんなりと勝つわけにはいくまい。勝負のカギは試合運びにかかってくる。

湧永は、復活の機会を今年にかける大崎電気(埼玉)、三景(東京)それに勝負欲の出はじめた三陽商会（東京）らに囲まれてはいるものの、津川、穂積、山本、松本、池ノ上、GK福井らにGK井藤、溝部（とともに日体大）を〝上積み〟した新陣容はスキがなく、つまづくことは考えられない。

湧永×大同が8年連続して優勝を争うと思うが湧永×本田技、湧永×日新の芽がないわけではないいずれのカードになろうとも湧永有利と占っておこう。

このほかでは2年目を迎えた中村荷役運輸（東京）が新人三尾（順天堂大）、村井(日体大）を加えて初の大同戦をどう展開できるかが話題だ。

立石×ジャスコの決勝か

◆女子　日本リーグを3週後に控えてのトライアル。

3月の日韓戦だけで戦力を占うのは危険としても、立石電機（熊本）×ブラザー工業（愛知）の勝者とジャスコ（三重）の決勝とみるのが順当。

立石、ブラザーは特に好調のようで、緒戦での対決は、ちょっともったいない。

この〝三強〟を紙一重で追うのは5連勝の偉業に挑む日本ビクター(茨城)、まとまりのある日立栃木(栃木)、復活機運がますます高まっている大崎電気（埼玉）の関東勢である。

また、こうした一本勝負に強い北国銀行(石川)や、日本リーグ1部カムバックで気をよくしているムネカタ（福島）の動きも、軽くはみられない。

滋賀国体を控えたブリヂストンタイヤ彦根（滋賀）の初出場も、コートサイドの注目を浴びるに充分である。

ともかく、去年の女子界は、国内の4大タイトルを、すべて別々のチームが握るという珍記録を生んだほどの伯仲。

はたして、今シーズン、その激戦の中から飛び抜けるチームが出るかどうか、この大会での展開がその答えを抽き出してくれそうだ

寺沢(市郷学園―ジャスコ)、太田（小松市女―ブラザー）、秋成(夙川学院―大和銀行)、山木（群女短大付―日立栃木)、石田（山陽女高―ジャスコ)、GK葛生(栃木藤岡高―日立栃木）といった大物新人がいつになく多いといわれるのも、いっそう球趣を高める。

ビクター×立石、日立×ジャスコという「去年の4女王」の準決勝から立石×ジャスコの決勝とみたいが、どんなものか。

◇……男　子……◇

（5月2～4日・名古屋）

大同特殊鋼(愛知)
中村荷役運輸(東京)
日鉄建材工業(大阪)
本田技研鈴鹿(三重)
日新製鋼(広島)
大崎電気(埼玉)
三陽商会(東京)
三景(東京)
トヨタ車体(愛知)
湧永薬品(広島)

◇……女　子……◇

（5月22～24日・大阪）

日本ビクター(茨城)
大和銀行(大阪)
東京重機(東京)
立石電機(熊本)
ブラザー工業(愛知)
日立栃木(栃木)
ブリヂストン・タイヤ彦根(滋賀)
大崎電気(埼玉)
ムネカタ(福島)
北国銀行(石川)
ジャスコ(三重)

関東学生日程変更　関東学連はこのほど、今春のリーグ戦（4月18日～5月29日）の終盤部分の日程を次のように変更した。

▽5月19日（駒沢体育館）東海×駒沢、日女体×明徳①、筑波×東女体①
▽5月20日（駒沢体育館）順天堂×東海、法政×日大、国士館×慶応、早稲田×筑波、日体×中央。
▽5月23日(日体大健志台体育館)明治×東海、茨城大×立教、日女体×明徳②、筑波×東女体②
▽5月24日(日体大健志台体育館)立教×東大、明星×茨城大、明治×駒沢、日女体×東学大①、東女体×明徳①、日体女×筑波①。
▽5月29日(最終日・駒沢体育館)日女体×東学大②、順天堂×明治東女体×明徳②、慶応×日大、国士館×法政、日体女×筑波②、中央×筑波、日体×早稲田。

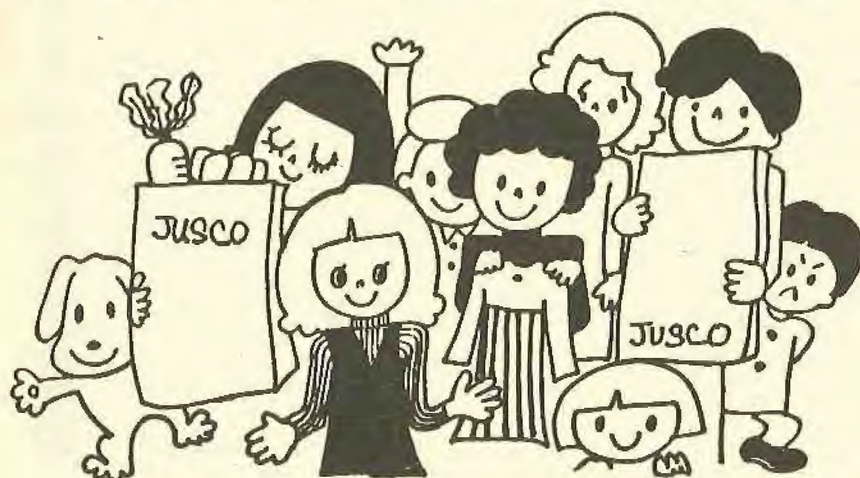
ブラザー工業、韓国へ遠征

日本リーグ女子・ブラザー工業（愛知）は、チーム強化の目的で4月29日から5月6日まで韓国に遠征、釜山、ソウルなどで同地の有力社会人チームと4～5試合を行う。高校以外の女子単独チームが訪韓するのは初めて。

ホンコン国際、夏に延期

4月19日からホンコンで開かれる予定の「インターポート・トーナメント(男子)」は、主催のホンコン協会内の事情で、今夏8月または9月に延期された。

参加準備を進めていた本田技研鈴鹿（三重）は、新日程が決定されたあと、改めて参加するかどうかを検討する、としている。


JUSCO
JUSCO



「国民スポーツ」への動き①

日本協会は、新体制発足のなかで「国民スポーツ」プロジェクトチーム編成の構想を明らかにしている。

荒川清美専務理事の説明によれば、従来のハンドボール競技人口の拡充は「普及」セクションによってつづけられ、「国民スポーツ」プロジェクトチームは、いわゆる競技人口の増加に主眼を置くものではなく、国民の間に「ハンドボール」というスポーツの理解を、より深める活動を行うという。

具体的には、年少者を対象としたミニ・ハンドボールの開発、それにつながる「ハンドボール・スポーツ少年団」の育成、家庭婦人、壮年層の健康手段としてのハンドボール普及などで、あくまで頂点の競技力のすそ野と考えてきた従来の〝普及対策〟とは、一あじちがった路線を打ち出すことになる。

そこで、本誌では、この活動の狙いにそった国内各地の動きを、現場からのリポートで、随時、紹介していくこととした。

第1回は、青森県野辺地町における町の少年大会の活況をお伝えしたい——。

青森県野辺地町の少年大会

4年前、青森国体のハンドボール競技をみごとに成功させた青森県野辺地町では、すっかり町にハンドボールが根づき、国体記念の各種大会は、大盛況だが、なかでも同町協会が3年前から開いている「あすなろ国体記念・野辺地町小・中・高校生大会」は、いまや町の年中行事として欠かせれものとなった。

今年の第3回大会は2月11、22日の2日間、町立体育館で行われたが、当初は11日一日のみの予定のところ、参加チームが合わせて31チームにものぼり、主催の野辺地町協会では、急きょ、22日を追加したものだ。

こうまで参加チームが増えたのは、年2回の少年ハンドボール教室と、年1回の町民大会を行っている日ごろの地道な成果によるもので、関係者は、大会ごとに深まる手応えに自信を得て、目標の「全町民にハンドボールを」へ向かい、張り切った歩みをつづけている。

小、中、高校生大会は、あくまで〈町民スポーツ〉へのステップとして考えられているため、どのチームも、中学や高校のハンドボール部員は2名以内に限られる。

各チームは、協会主催で、毎週午後6時30分から行われている「練習会」に参加できるから、チームのなかに、経験者が居なくてもその気になれば、大会までにそれなりの、かっこうがつく。

面白いのは、各チームの名前で勝手気ままなネーミングは、まさに「草ハンドボール」の楽しさいっぱいだ。

この大会に備えてユニホームをなどという堅苦しさはなく、大会要項に「背番号は主催者で準備する」とあるのは、なんとも、ほほえましい。

【リポートと資料提供・滝口太】

第3回野辺地町小・中・高校生ハンドボール大会の成績

◇中学男子の部（優勝：コマネチ）

```
コスモ———————— 2┐
神風 2┐          ├7┐
コマネチ 6┘14┘    ├10┐
闘魂———————— 9┐0┘   │
ブルーインパルス— 1┘    ├ コマネチ
えぼし———————— 4┐       │
コントロール100%—11┘4┐    │
パスケ 10┐          ├3┘
木村組 0┘7┐ 1┘
与作———————— 5┘
```

◇中学・高校女子の部（優勝：ピコピコチーム）

```
はりきり 6┐
野辺地銀蝿 2┘0┐
レッドインパルス 1┐  ├7┐
ピコピコチーム 6┘6┘  │
スーパーべれじ,イ 4┐    ├ ピコピコチーム
ファーストレディース 2┘1┐  │
Dr.スランプ 1┐      ├4┘
I・M・O 8┘4┘
```

◇高校男子の部（優勝：原宿）

```
勤勉———— 7┐
オーメン 8┐  ├10┐
天間 17┘6┘   ├11┐
N・N・N・N 6┐   │   │
銀蝿 1┘11┐   │   │
緑一色 6┐  ├8┘   │
スランプ 3┘8┘      ├ 原宿
番外甲子園—— 7┐       │
原宿 11┐  ├9┐     │
らんまる団 8┘9┘  ├14┘
野工B 2┐       │
オフコース 10┘10┐  │
極東連合—— 3┘7┘
```

プレス・ルーム <31>

小　山　敏　昭
――――(共同通信社運動部)―

■法人化後の活動こそ重要

日本ハンドボール協会が財団法人化された。体協に加盟する競技団体としては三十四番目で、一九三八年に日本送球協会が設立された歴史から考えると、やや遅かったのでは、というのが印象だ。

私たちマスコミ関係者にとっては協会が法人化されたということはあまり関心がない。しかし、協会内部の人たちにとっては設立準備金を集めたり、規約を作ったりで、その努力は大変だったろうと思う。今回ハンドボールは五千万円の基本を目標にがんばったとのことで、二百万円を寄付した日本リーグの各チームや、地方協会の寄付など金銭的な苦労は並々ならぬものがあったに違いない。

法人化については昨年十二月に日本庭球協会が法人化され日本テニス協会になった。体協加盟団体としてはハンドボールの一つ前の三十三番目の法人化であった。だが、私たちにとってはNECやサントリーなど大スポンサーがついて、金銭的にも恵まれているテニス協会の方がむしろ遅かりしの印象が強い。

もっとも法人化されることが早いか遅いかで協会の価値が変わるものではない。オリンピックを統割する国際オリンピック委員会ですらいまだにスイス国内における法的地位や国際法上の法団化など確定されていない。

問題は今後いかに協会がスムーズに運営されるかで、法人化とともに協会の一層の発展を期待したい。

■アジアでもジュニアの大会を

第三回世界ジュニア選手権（男子は十二月ポルトガル、女子は十月カナダ）のアジア予選が男女とも、初めて開催されることになった。

これまで世界ジュニア選手権にはアジアから日本以外の出場はなく、日本が毎回、予選なしで出場権を得ていた。

ところが今回、男子は日本のほか台湾、クウェート、サウジアラビアが、女子は日本、中国、韓国台湾がエントリーし、IHFでAHFはに委嘱してアジア予選を開催する運びになった。

これは、ハンドボールがアジアの巾でも普及してきたことを示すものである。

もっともAHF加盟国が17カ国もあることを考えれば、まだまだという感じも強い。

昨年IHFから送られてきたIHF公認のイベントをみると、欧州ではジュニア大会が二月ポーランドでの『ブルゴマスター・カップ』、四月スペインでの『ラテン・カップ』、八月ギリシャとユーゴでの『バルカン・カップ』、十月チェコスロバキアの『ベスキデス・カップ』など一年間には何度も開かれている。

やはり〝本場〟欧州ではジュニアの強化が即ちナショナルの強化につながることを重要視したことがこうしたジュニア大会の多数の開催につながっていると思われる。

アジアではナショナル・レベルでの大会といえばアジア選手権のほか、二月にクウェート建国二十周年記念の国際大会があったぐらい。

アジアでジュニアだけの大会が開催されるまでには、まだまだ時間がかかりそうだ。

■トップと若年の断層解消が急務

このところ日本で開催された国際試合での日本の敗戦が続いている。まずスキーではワールドカップを含め国際大会で8連敗。今季日本の〝空〟は全て外人勢に征覇されてしまった。そしてサッカーではポーランドを招いての国際親善試合で全敗、日韓戦でも敗退した。もっと惨めだったのはテニスで、せっかく日本のスポンサーがついたデ杯は第一人者ボルグを抜いたスウェーデン相手にわずか1セットしか取れずに敗れた。

日本国内だけでなく海外の試合でも例えばアイスホッケーのように世界選手権Bグループでは1勝6敗で最下位に終わり、来年はCグループに転落してしまった。またバドミントンでも世界選手権に匹敵するといわれる全英オープンで完敗し、六月に日本で開かれる女子の国別対抗戦ユーバー杯でも赤ランプがともってきた。

何故こう日本が負け続けるのだろうか。原因はいろいろ挙げられるが、ひとつの要因にベテランと若手の入れ替え期という問題がある。

ハンドボールでも一時代を築いたミュンヘン・オリンピック代表組の木野、近森、野田らが現役引退し、代表組で残っているのは大同での中井ぐらいだ。

女子も加藤や松下、紀野らが全日本のリストから消えている。

かつてトップクラスを徹底的に鍛え、若手との段層が協会の共通した悩みだったが、現代また同じような状況になっているようだ。

そのためにはナショナルの強化はもちろんのことだが、ジュニアの育成も忘れられない大事なことだ。

世界女子ジュニアアジア予選で日本は中国に連敗してしまい前途多難、残る望みは男子だ。

幸い木野、本田と男子のジュニアは好指導者に恵まれているだけに、協会としてもより一層ジュニアの強化に励んでもらいたい。それが日本の復活につながり、日本スポーツ界全体の盛り上がりになっていくと思う。

☆リポート

ハンドボール競技における「松ヤニ」の効果

大西武三
（日本協会常務理事・筑波大監督）

ハンドボールの国際ゲームではボールハンドリングを良くするために「松ヤニ」を手につけてゲームすることが、かなり以前から〝常識〟となっている。

日本国内においてもトップレベルのゲームでは、近年かなり使用されているが、すべての大会、すべてのゲームで、使用されていないのは、大会、ゲームごとの規定によって、その使用の可否が決定されているからである。

「松ヤニ」の使用は、ボールを片手で握ってプレーすることを可能にする。

片手でのプレーは、ボールをより大きな範囲でスピーディにしかも自由に動かすことができる。

したがってボールを中心として攻防がなされるハンドボールゲームにとって、ボールを片手で握れるか否かは重要な問題である。

ハンドボール競技のボールハンドリングの特性が「握る」ことにあるなら「松ヤニ」の使用を認めさせる状況をつくり出すか、ボールの規格を小さくすることが必要であろうし、そうでないなら「松ヤニ」の使用は禁止すべきであろうと思われる。

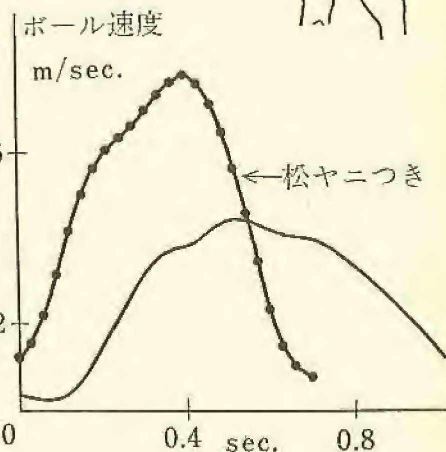
「松ヤニ」がハンドボールのプレーに及ぼす効果がどれほどのものか、筑波大学男子ハンドボール部員16名を被験者として調査したデーターがあるので、ご紹介しよう。

◇

16名の被験者を、ボール操作の基礎的動作である「振りまわし」「ストップ」「引きあげ」「切り返し」の四つのパターンを「松ヤニ」を使用した場合と使用しない場合で行わせた。

被験者は大きく、しかも速い動作で行うようにプレーを行ない、その動作を16㎜・ボレックスカメラにより64コマ／秒で、撮影した。





◇

（結果と考察）別掲に示した図はボール操作の4パターンの仕方と被験者T選手、S選手の各パターンにおけるボールのスピードである。

各被験者において、松ヤニを使用した場合としない場合では、次のことがいえる。

「松ヤニ」を使用した場合は、使用しない場合に比較して①ボールの速度が大きい。②ボールの速度の立ち上がりと落ちこみが急激である。

以上の結果は、当然のことであるが、「松ヤニ」を使用することによってボール操作にスピードをつけることができ、またシャープなボールの切り返しができることを示している。

「松ヤニ」を使用することによって、これだけボールの操作が異なれば、「松ヤニ」使用の可否を大会ごとの規定に任せる状況をいつまでも続けることは問題であろう。

（了）

汚損で嫌われる「松ヤニ」

□…「松ヤニ」の使用が禁じられる大会があるのは、その行為が〝不正〟だからではなく、会場（体育館）側が、フロアの汚損を嫌って、使用を断るケースが多い。

このため、同じ大会でも、A会場では許可されるが、B会場では禁止といった不統一がしばしば起こり、選手を戸まどわせる。

主管協会も事後の借用を考えて会場側を説得することはまずない

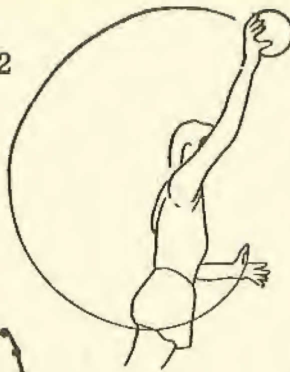
□…今のところ高校界は、多くの大会がアウトドアということもあって、「松ヤニ」は常用されていず、指導者も、中学・高校時代からの使用は好ましくない、とす」る人が圧倒的だ。

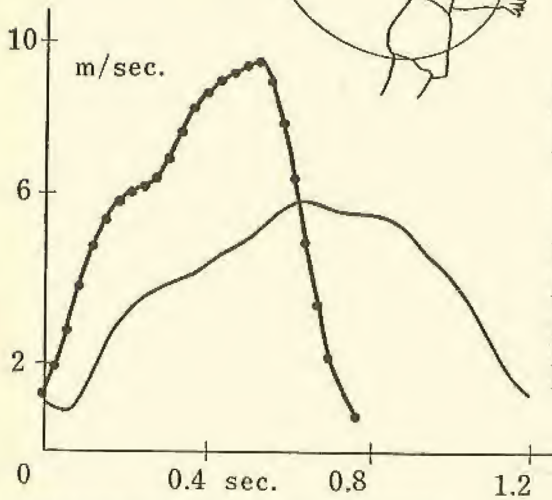
もっぱら〃問題〃となるのは、学生以上の成年部門で、国際試合経験者も多いため、「松ヤニ」使用は常識化している。

それだけに、大会ごと、会場ごとの不統一に反抗色が濃く「国内の全施設に、日本協会名で松ヤニ使用許可の働きかけを行うべきだという声さえある。

□…昨年くれ、共同通信が興味あるデータを流した。

パターン・2
ストップ





(各図とも丸つきの線が「松ヤニ」使用を示す)

第5回日本リーグ男子1位の大同特殊鋼の一試合平均得点は「松ヤニ」使用会場で30点、不使用会場だと23・3点、同2位の湧永薬品は使用で31・3点、不使用で16・5点というのである。(本誌調べで昨年の日本リーグ23会場のうち「松ヤニ」禁止は11会場)。

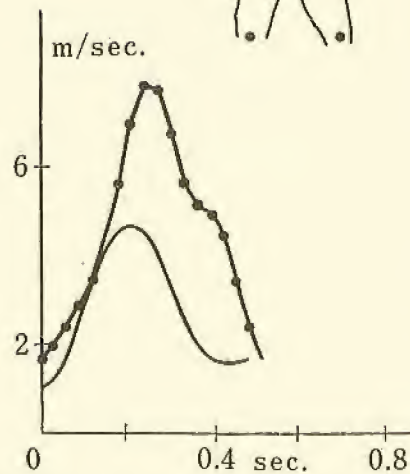
□…日本リーグなどのような競技システムを採る大会では、「松ヤニ」使用不使用が順位を左右することになりかねない。

いまのところ、日本協会審判・規則委では「国際ルールに明文化されていないから」との理由で、ルールに盛りこむ考えはないようだが、共同通信のデータといい、大西氏のリポートといい、「松ヤニ」問題が、いつまでも放置されていてはならないことを示している。

スタンドの常連たちは「松ヤニ」の流行で、ハンドボールは〃観るスポーツ〃としても、いちだんと成長した、というのだが……。

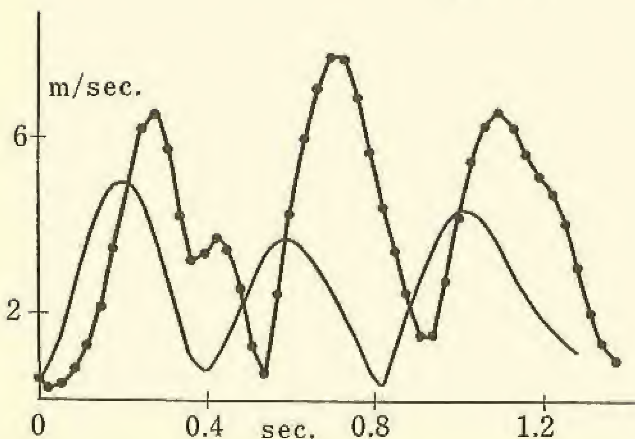
パターン・3
引きあげ





パターン・4
切り返し





各地の記録

女子は興南ＯＧが初

▼第14回沖縄県一般選手権（4月・奥武山体育館）

▽男子準々決勝
沖縄教員 36－22 沖縄国際大
コザ・ク 34－18 カデナ・ク
糸満ＯＢ 32－17 おもと
那覇ＯＢ 27－14 興南ＯＢ

▽同準決勝
沖縄教員 31－19 コザ・ク
糸満ＯＢ 33（延）31 那覇ＯＢ

▽同決勝
沖縄教員 37（15－15、22－15）30 糸満ＯＢ

▽女子決勝
興南ＯＢ 17（9－2、8－4）6 はたはたあず

男女とも日川勝つ

▼山梨県高校大会（4月・山梨高）

▽男子準々決勝
日川 34－13 大月付
日大明誠 18－17 甲府西
吉田 33－3 峡北
甲府一 30－17 甲府工

▽同準決勝
甲府一 27－20 吉田
日川 22－5 日大明誠

▽同決勝
日川 32（16－7、16－4）11 甲府一

▽女子準々決勝
日川 10－3 甲府南
吉田 11－4 第一商
山梨 15－5 塩山商
桂 12－2 甲府東

▽同準決勝
山梨 19－5 桂
日川 17－6 吉田

▽同決勝
日川 16（10－3、6－5）8 山梨

湧永薬品、圧倒の出足

▼広島県一般男子トーナメント（4月・修道大）

▽準々決勝
海上自衛隊呉 18－9 広島工大
広島大 24－13 修道大
呉ベアーズ 18－13 広島県教員団
湧永薬品 37－3 呉同好会

▽準決勝
湧永薬品 34－13 呉ベアーズ
海上自衛隊呉 27－15 広島大

▽3位決定戦
呉ベアーズ 30－17 広島大

▽決勝
湧永薬品 31（16－1、15－9）10 海上自衛隊呉

笠間ク女子1位、男子2位

▼第17回（女子第2回）茨城県一般春季大会（4月・勝田高）

▽男子準々決勝
笠間ク 20－9 日本原研
筑波大 25－17 自衛隊勝田
筑波振球会 19－15 麻生ク
茨城大 21－16 茨苑ク

▽同準決勝
笠間ク 22－18 筑波大
茨城大 24－23 筑波振球会

▽同決勝
茨城大 18（9－9、9－6）15 笠間ク

▽女子決勝
笠間ク 10（3－6、7－2）8 桜芳ク

女子リーグも発足

▼第31回（女子第1回）愛知クラブ対抗リーグ（3～4月）

▽男子1部①桜丘会5戦全勝②愛知教員4勝1敗③大同ク3勝2敗④愛教ク2勝3敗⑤名南ク1勝4敗⑥東杏会5敗

▽同2部①上野ク②平田ク③知多ク④春日井ク⑤大江ク⑥東山ク

▽同3部①桜丘会B②南山ク③大同高蔵ク④東海ク⑤名大ク

▽同4部①桜田ク②北斗ク③千種ク④愛商ク⑤横須賀ク

▽同5部①ザ・コーズ②市工ク③アプローズ④市工芸ク⑤守山ク

▽女子①名古屋ク②アプローズ③愛知教員④半田ク⑤東海ク

高校男子は仙台一制す

▼宮城県総合選手権春季大会（4月・仙台日の出町球技場）

▽一般男子準々決勝
仙台大ＯＢ 22－18 東北大
東北学院大ＯＢ 29－17 東北工大
東北学院大 18－10 宮城教大
仙台大 19－6 東北学院大工

▽同準決勝
東北学院大ＯＢ 25－18 仙台大ＯＢ
仙台大 14－9 東北学院大

▽同決勝
東北学院大ＯＢ 28（12－8、16－10）18 仙台大

▽高校男子準々決勝
仙台一 19－13 仙台育英
一迫商 17（分）17 古川
ＰＴＣ2－0で一迫商の勝ち
仙台二 23－4 仙台
仙台三 17－12 仙台向山

▽同準決勝
仙台一 21－5 一迫商
仙台二 13－11 仙台三

▽同決勝
仙台一 17（4－8、13－4）12 仙台二

▽同女子準々決勝
宮城三女 8－6 飯野川
聖和 13－3 筑館
涌谷 9－3 古川商
宮城一女 9－7 宮城二女

▽同準決勝
涌谷 7－2 宮城一女
宮城三女 4（分）4 聖和
ＰＴＣ2－1で宮城三女の勝ち

▽同決勝
涌谷 6（3－2、3－3）5 宮城三女

▼京都府高校春季大会（4月・乙訓高ほか）

▽男子準決勝
城南 16－15 洛星
東宇治 17－16 洛水

▽同決勝
東宇治 18－12 城南

▽女子準決勝
鴨沂 12－9 西宇治
東宇治 11－10 西京商

▽同決勝
東宇治 15－2 鴨沂

専門誌のベストセブン

スポーツイベント社（東京）の発行する「ハンドボール」誌5月号は恒例の読者投票による「55年度日本ベスト・セブン」を次のように発表した。投票総数は一、九二六。

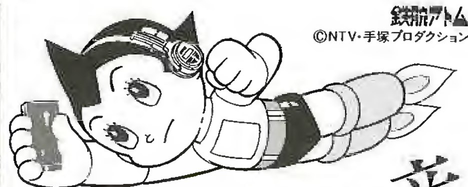
▽男子・GK福井秀人（湧永）・FP・蒲生晴明（大同）、山本伸二（湧永）、大原真治（大同）、津川昭（湧永）、池ノ上孝司（湧永）、穂積豊彦（湧永）。

▽女子・GK井村文光子（立石）・FP松下仁美（ジャ）、紀野奈々美（立石）、加藤美起子（日ビ）、西典子（大崎）、島田さゆり（日立）、辻本典子（ジャ）。

編集後記　いつも役員改選直後の発行になる5月号は、委員会の編成が間に合わないため専務理事（理事長）の責任編集となり、今回も、一昨年同ように、記者クラブ有志のかたのご協力を得て、刊行にこぎつけました。

6月号からは新スタッフが新装の機関誌をお届けすることになります。ご支援を。

（荒川）



飛びだせ、いい音。
カプセル・サウンド。



軽快なフットワークが決め手だ。
青春のナイスシュート!





STEREO CAPSULE
ステレオカプセル300

TRQ-300
¥39,800

ヘッドホンで、カセットテープのステレオサウンドが楽しめる《ステレオカプセル300》。ステレオ録音OK、メタルテープも聴けて、ダビング用のデッキとしても使える実力派。さあ、「いい音」つれて街へ飛びだそう!

●レビュー/キュー機構 ●メカニカルポーズつき ●フルオートストップ機構 ●ワンタッチ録音方式 ●LEDによる録音/オペレーション(バッテリーチェック兼用)インジケーターつき ●自動録音(ALC)機構内蔵 ●Rチャンネル、Lチャンネル独立ボリュームつき ●3.5㎜直径ステレオ録音用外部マイク端子つき

●IC×2、トランジスター×6、ダイオード×4、LED×1●実用最大出力50mW(25mW+25mW)EIAJ/DC●2電源/DC:3V(単3×2)、AC:100V 50/60Hz(別売りACアダプターA-200使用)●大きさ幅174.5×高さ88.0×奥行25.0(㎜)●重さ400g(乾電池含む)
★小形・軽量ヘッドホン、専用キャリングケース付属

品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI CASSETTE RECORDER



上手に使って上手に節電

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111

日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)503-2111

お求めは、お手軽なお支払い 日立のクレジット

★ご購入金額から頭金を差引いた金額が1万2千円から100万円までの場合、クレジットがご利用いただけます。★商品のお問い合わせ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立家電品取扱店へお気軽にどうぞ。★日立カセットレコーダーには保証書がついています。ご購入の際には必ず記入事項をご確認のうえ、お受取りになり大切に保存してください。★日立カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一九六号
昭[…]月七日 第三種[…]認可
昭和五六年四月二十五日 印刷
昭和五十六年五月一日 発行
[…]京都渋谷区神南一−一−一
[…]話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六−五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五十円
(年間購読料三千三百円)